江別市立病院の役割とあり方を検討する委員会答申書　参考資料

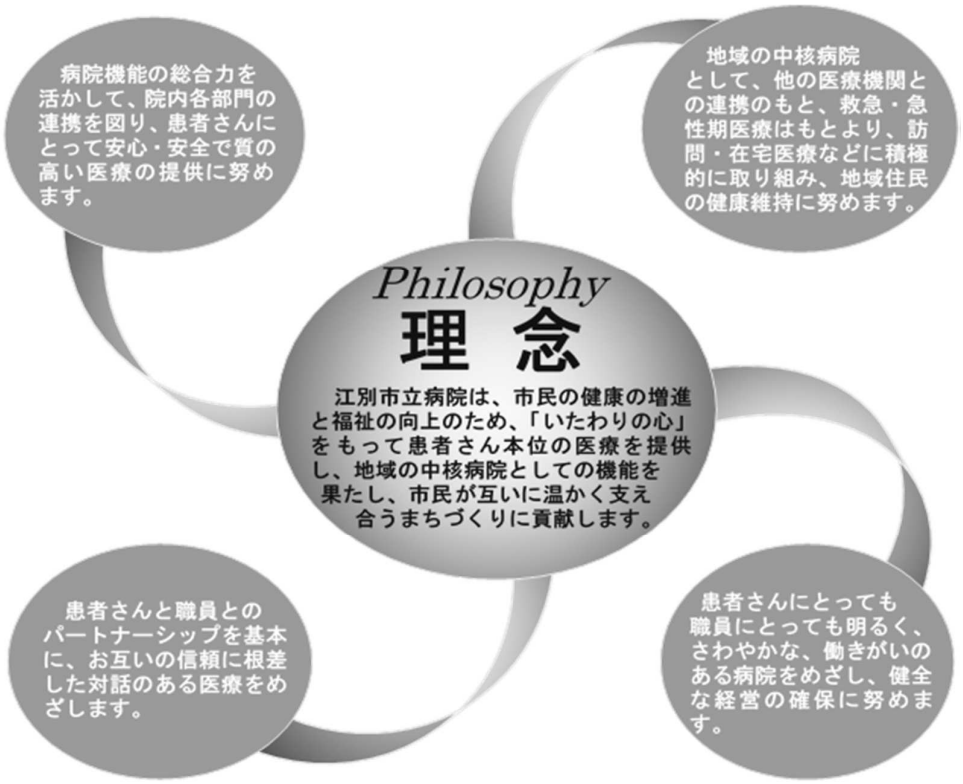
2020/1/29

１	江別市立病院の概要	P 2～P18
２	地域医療の現状	P19～P36
３	江別市立病院が担うべき医療に関する事項	P37～P54
４	江別市立病院の診療体制に関する事項	P55～P61
５	江別市立病院の経営改善に関する事項	P62～P76

※委員会での資料を項目別に整理したもの

１　江別市立病院の概要

江別市立病院の理念



江別市立病院の概況　診療科、病床数、構造・規模

診療科

内科
人工透析内科
消化器内科
循環器内科
呼吸器内科
精神科
小児科
小児循環器内科
外科
消化器外科
内視鏡外科
乳腺外科
整形外科
皮膚科
泌尿器科
産婦人科
眼科
耳鼻いんこう科
麻酔科
ペインクリニック麻酔科
リハビリテーション科
放射線科

（全２２科）

病床数

一般病棟　　２３４床
地域包括ケア病棟４４床
精神病棟　　５９床
（合計３３７床）

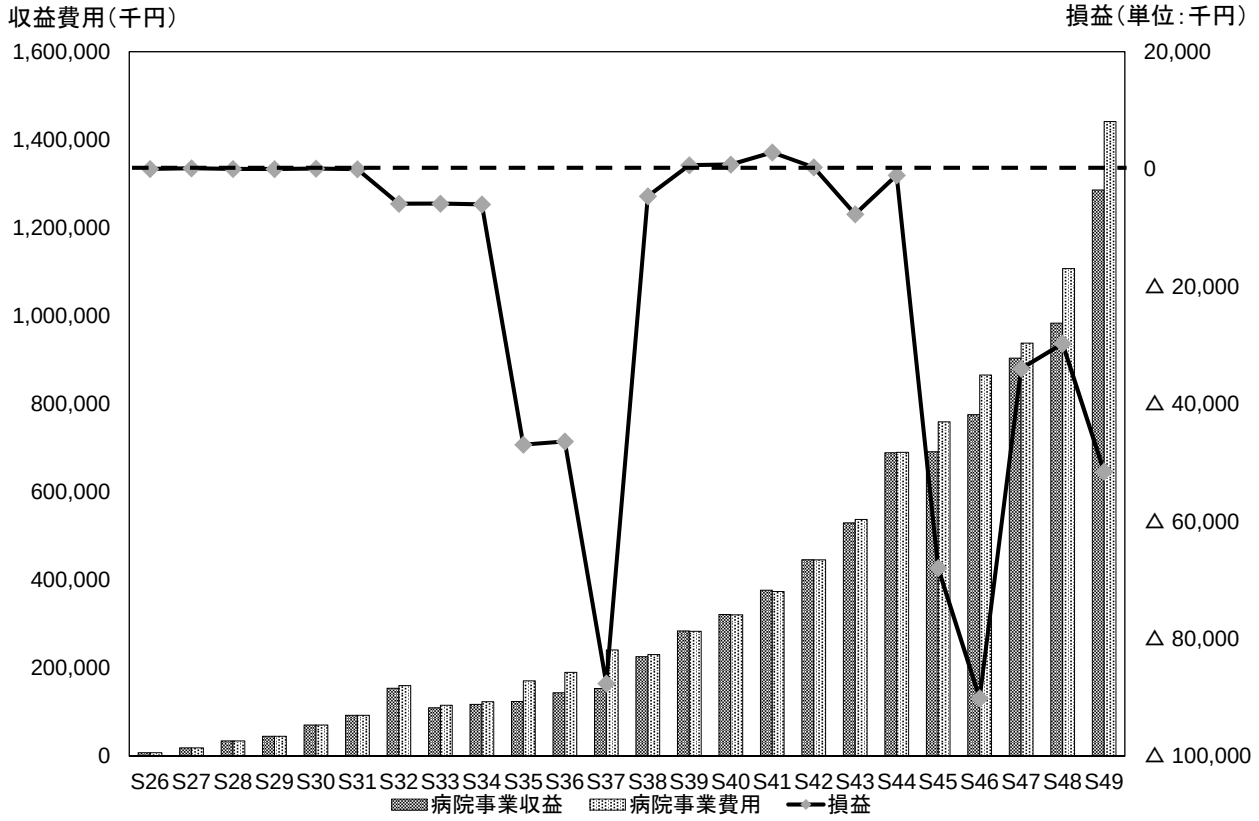
構造・規模

敷地面積：35,346.97㎡／ 構造：鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄筋コンクリート造、地下１階、地上５階、一部２階建、塔屋１階／建築面積：8,872.184㎡（本館8,070.218㎡、エネルギー棟801.966㎡）／延床面積：25,989.389㎡（エネルギー棟含む）

江別市立病院の沿革①―黎明期から拡張期―

年代	出来事	人口	医療機関
昭和20年度	○国立札幌病院付属江別診療所を誘致 内科・小児科・耳鼻科　20床 ⇒施設の貧弱さその他の理由から経営不振となる。	昭和25年 31,647人	昭和25年 病院　1 診療所9
昭和26年度	○江別町立病院を開院（第1期病院建設時代） 4か年計画で、約1億600万円を投じ、一般病棟、結核病棟、隔離病棟などを新築、病床数216床、診療科目7科		
昭和30年度 ～38年度	○第2期病院建設時代（総合病院への整備） 霊安解剖室の建設、精神病棟の新築・増築、病院内の増改築、医師住宅の新築 ○「総合病院」へと名称変更	昭和35年 37,396人	昭和35年 病院　3 診療所12
昭和41年度 ～44年度	○第3期病院建設時代（近代医療への脱皮） 病院整備計画（議会承認）に基づき、増改築工事を実施		
昭和46年度	○病床数　一般 220床、結核 60床、精神 205床、伝染 15床 合計500床 ○診療科目　14科 内科、精神神経科、呼吸器科、小児科、外科、整形外科、皮膚科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、理学療法科、放射線科、麻酔科、歯科	昭和45年 63,762人	昭和45年 病院　4 診療所30
昭和49年度	○累積赤字が6億3千万円⇒改善の必要性が一気に表面化 ○不良債務解消のため「特例債制度」を活用（277,400千円） 【全国的に自治体病院の経営悪化】 ①診療報酬の不適正および改定の遅延、②自治体病院の使命に基づく経費の増嵩、③医師不足および人件費の増嵩、④病院の配置および規模の不適正		

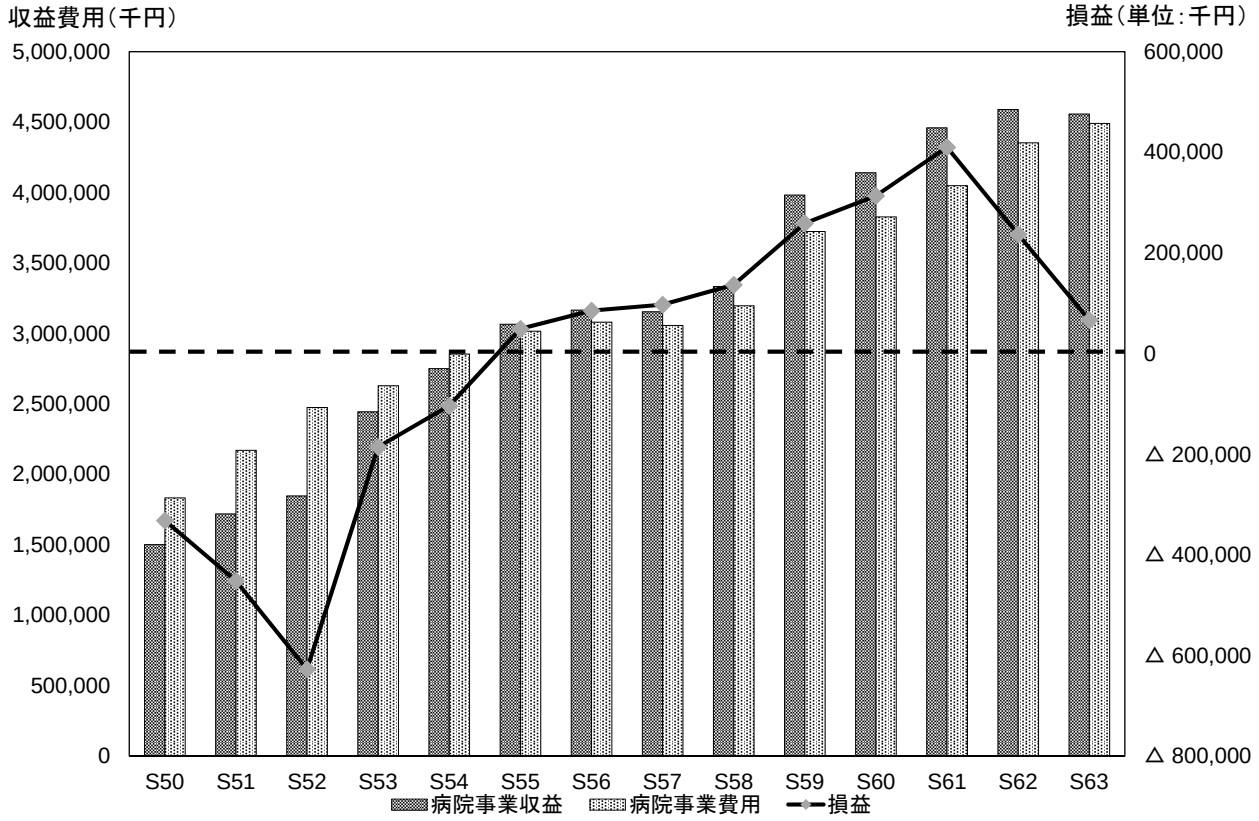
江別市立病院の沿革②－病院事業収益費用の推移（昭和26年度～昭和49年度）



江別市立病院の沿革③－準用再建団体の時代―

年代	出来事	人口	医療機関
昭和51年度	○市立江別総合病院運営審議会に対し、市立病院が担うべき役割と効果的運営の方途について諮問、答申を得る		
昭和53年度	○自治医科大学一条教授による経営診断 ⇒財政再建基本方針（昭和53年度から3年間）を決定するも再建の歩みは進まず。		
昭和55年度	○結核病棟（60床）の廃止、高等看護学院の廃止 ○市議会「病院再建特別対策委員会」を設置 **○昭和56年2月臨時市議会で準用団体の指定による財政再建計画が承認（翌月自治省の許諾）** ＜計画の内容：拡大再生産方式＞ 外来棟の新築と病棟の増築、老人病床の増床や重症患者の集中治療室（ICU）の設置、夜間急病診療所の併設、泌尿器科や眼科の常設 ※市立病院職員30人減員、市長部局を含む職員給与の減額是正や昇給延伸などの措置をあわせて実施	昭和55年 86,349人	昭和55年 病院　3 診療所39
昭和59年度	○老人病床50床を増床 病床数　一般278床、精神205床、伝染20床　合計503床		
昭和61年度	**○準用財政再建計画終了** 累積赤字　22億4千万円（昭和55年度）⇒9億3千万円 不良債務　18億6千万円（昭和55年度）⇒解消 ○市議会で病院再建対策特別委員会を廃止	昭和63年 92,589人	昭和63年 病院　5 診療所41

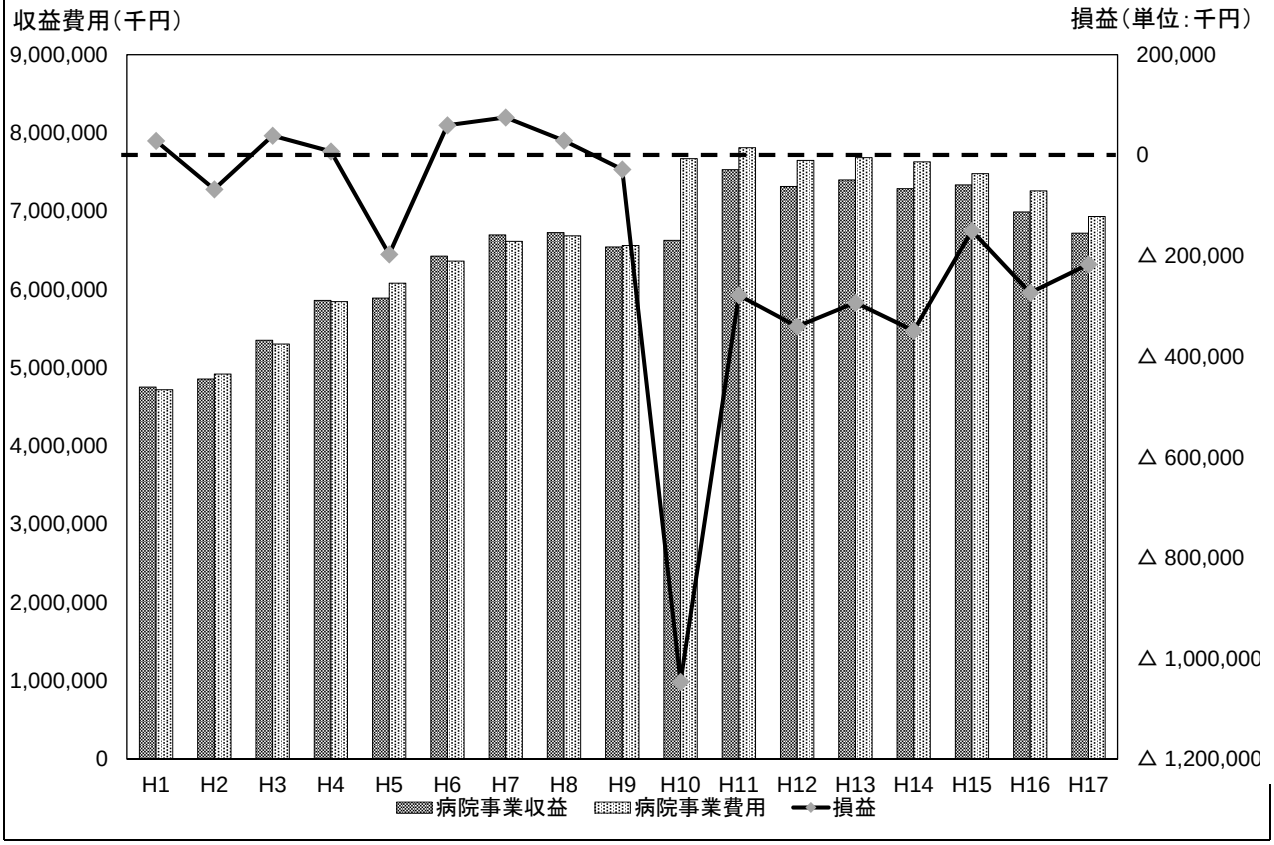
江別市立病院の沿革④－病院事業費用収益の推移（昭和50年度～昭和63年度）



江別市立病院の沿革⑤

年代	出来事	人口	医療機関
平成3年度	○市からの長期借入金（3億1千万円）を完済		
平成10年度	**○江別市立病院開院** ・病床数（合計408床） 一般 278床　精神 130床 ・診療科目（合計17科） 内科、精神科、神経内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科 ○累積欠損金17億3千万、内部留保資金6億7千万円	平成10年 120,455人	平成10年 病院　5 診療所47
平成11年度	○1日平均外来患者数が1,500人を突破 【内科系医師の多忙化】 ・内科の専門分化に伴い、各科が少人数の体制になり繁忙を極める ・内科医が病院併設型夜間急病診療所の問題点を訴え、市立病院からの切り離しを要請するも実施が遅れる ・内科系医師の派遣については、北大に依存		
平成16年度	◆新臨床研修医制度必修化 ⇒研修医の多くが研修システムの確立した民間病院を選択し、大学病院（医局）に残る研修医が激減		
平成17年度	○第6代院長退職（平成9年4月～平成18年3月） ○累積欠損金36億3千万円、内部留保資金10億円 ⇒新病院建築により減価償却費の負担が増したため、累積欠損金は増加していたが、内部留保資金は確保		

江別市立病院の沿革⑥病院事業費用収益の推移（平成元年度～平成17年度）



江別市立病院の沿革⑦—内科医一斉退職による経営危機（平成18年度の動き）—

年月	出来事
平成18年4月	○後任の院長が決まらず、小児科主任部長が院長代行に就任
平成18年6月	○消化器科医師全員退職（4名）
平成18年8月	○東5病棟休止
	○産婦人科医師1名退職
平成18年9月	○内科系医師全員退職（7名）、神経内科・皮膚科医師退職
	○西5病棟休止
平成18年10月	○精神科1病床（130床⇒59床）に縮小し、作業療法室等に改修
	○夜間急病診療所を院外に移転（市直営に変更）
平成18年11月	○内科固定医師1名採用、産婦人科非常勤医師1名退職（常勤医師1名となる）
	○院長代行が第7代院長に就任
	○江別市立病院あり方検討委員会発足（KKR札幌病院院長ほか計6名）
平成18年12月	○医師の定着と確保の可能性に向けた給与面での処遇改善を実施
	○社団法人地域医療振興協会より支援医師の派遣を受ける（出張医）
平成19年1月	○内科固定医師1名採用（内科2名体制へ）
平成19年2月	○江別市立病院あり方検討委員会答申
	・市立病院は地域におけるセンター病院として専門的な医療を提供すべき。
	・市立病院は、入院を要する高度な医療機能を果たすべき。
	・当面の緊急課題として、内科医師を確保するためにあらゆる可能性を模索すべき。
	（医療の専門性を確保する観点からは、大学からの医師派遣を基本とすべき）
平成19年3月	○市立病院に関する市民説明会開催（市民約160名参加）
	○平成18年度決算で不良債務発生（46,464千円）

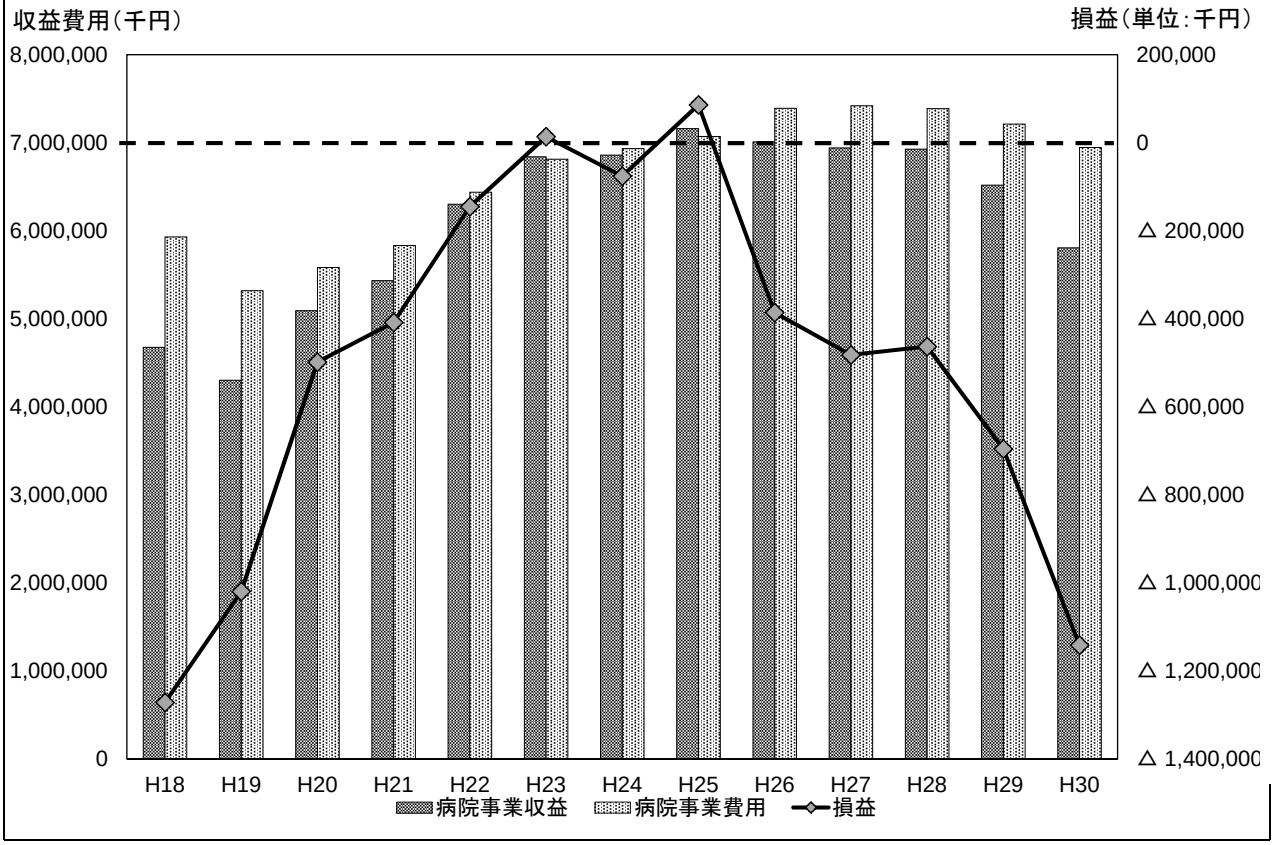
江別市立病院の沿革⑧—経営再建の道のり（総合内科医を育てる病院を目指して）—

年月	出来事
平成19年4月	○北海道より内科常勤医２名の派遣を受ける（副院長、常勤医師＜自治医大出身＞）。
	○消化器科常勤医師１名を加え内科医５名体制、産婦人科医師不在となる。
平成19年5月	○西３病棟（産婦人科系病棟）を休止し、西５病棟（内科系病棟）を再開
平成19年8月	○地域医療振興協会から１名の消化器科常勤医の派遣を受ける
平成19年11月	○札幌医大から１名の常勤医師の派遣を受ける（総合内科指導医）
平成20年3月	○平成19年度決算で不良債務拡大（838,239千円）
平成20年4月	○「総合内科」を院内標榜
	○東５病棟再開（内科常勤医10名体制）
平成20年5月	○公的病院に総合内科医師の派遣を開始（市立美唄病院、岩内協会病院など）
平成20年6月	○市立病院経営健全化評価委員会設置
平成20年10月	○民間委託による２４時間院内保育所の運営開始（医師・看護師の勤務環境整備）
平成21年3月	○公立病院特例債借入（平成21年３月31日　838,200千円）⇒不良債務を一部解消
平成21年4月	○西３病棟再開（産婦人科医２名体制）
平成22年5月	○総合内科医教育センター設置
平成22年10月	○総合内科医養成研修センターに指定される（指定期間：平成22年10月～平成26年3月）
平成24年3月	○「江別市・栗山町の地域医療に関する協定書」締結
平成25年4月	○医師43名体制（内科系医師20名体制）
平成25年8月	○札幌医科大学「北の地域医療を支える総合診療医養成プラン」の研究教育拠点となる。
平成26年3月	○「江別市・南幌町の地域医療連携に関する協定書」締結

江別市立病院の沿革⑨―再び経営危機へ―

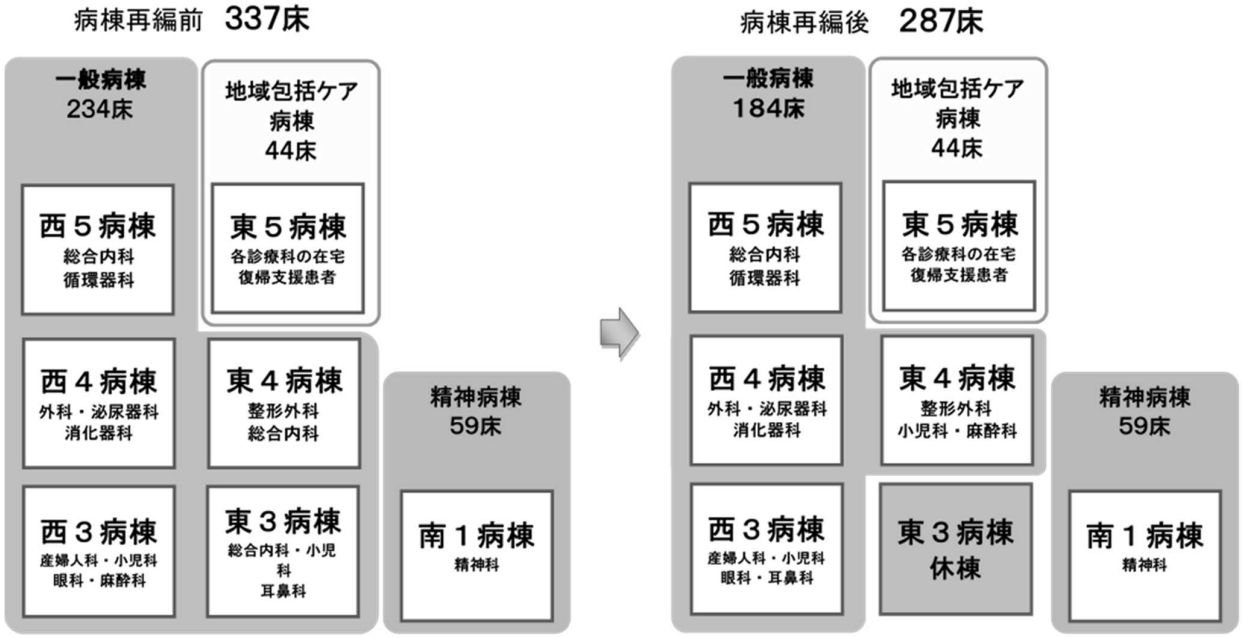
年月	出来事
平成26年5月	◆一般社団法人日本専門医機構設立⇒大学でも総合診療専門医を育成する動き
平成27年2月	○院内情報システム（電子カルテ等）の稼働開始
平成28年3月	○一般会計から長期貸付金7億5千万円を借入れ（公立病院特例債償還のため）
平成28年4月	○DPC（医療費包括評価方式）に基づく入院医療費計算開始
平成28年5月	○地域包括ケア病棟運用開始 ⇒DPC制度及び地域包括ケア病棟を導入し、医療の質の向上とともに、経営の改善を目指す（ジェネリック薬品の導入など）
平成28年9月	○総合内科医教育センター長退職（初代）
平成29年3月	○総合内科医教育センター長退職（4月以降、副院長が事務取扱）
平成29年6月	○市議会において市立病院・地域医療検討特別委員会を設置
平成29年10月	○院長代理設置
平成30年3月	○第7代院長退職 ○総合内科後期研修医全員退職
平成30年4月	○第8代院長就任 ◆新専門医制度開始
平成30年5月	○患者支援センターを設置
平成30年10月	○東3病棟休止（50床）
平成31年1月	○江別市立病院シンポジウムを開催（参加者129名）
平成31年3月	○市議会において市立病院・地域医療検討特別委員会から提言、委員会廃止 ○一般会計から長期貸付金6億円を借入れ（運転資金確保のため）
令和元年8月	○「江別市立病院の役割とあり方を検討する委員会」設置

江別市立病院の沿革⑩病院事業費用収益の推移（平成18年度～平成30年度）



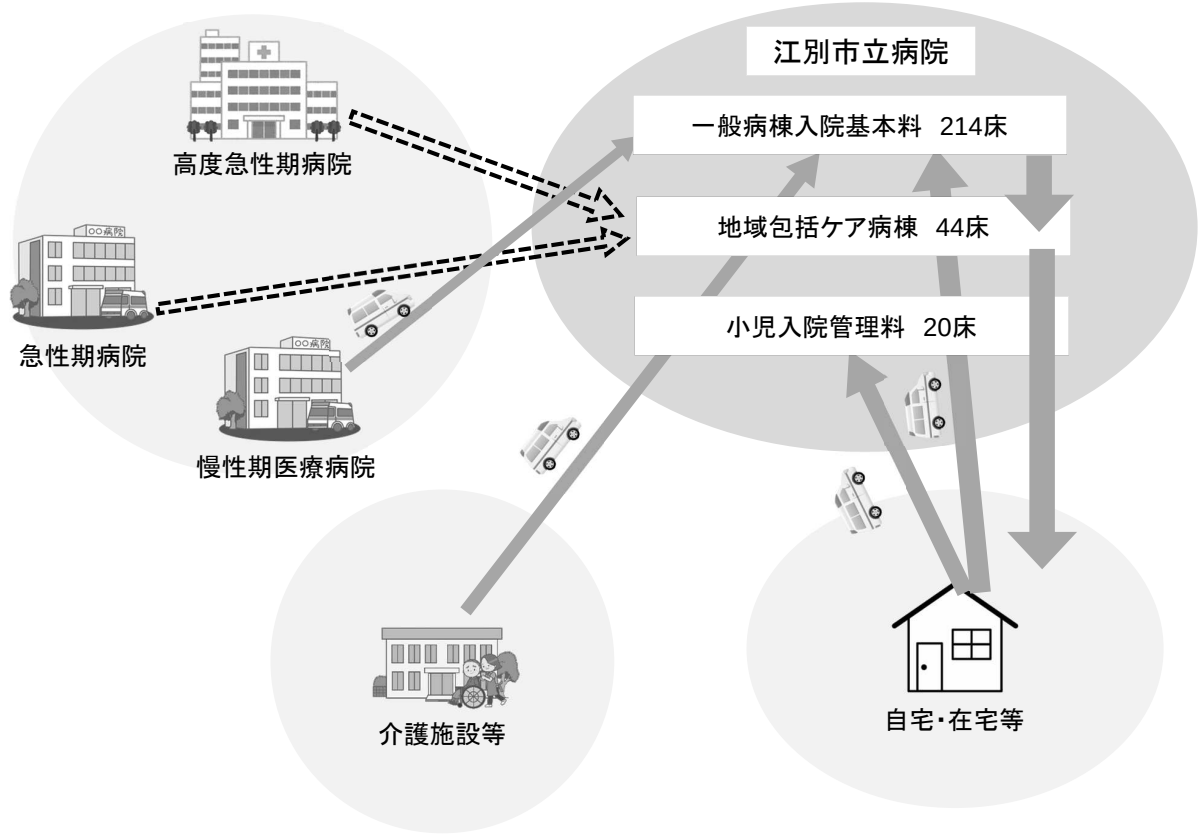
江別市立病院　病棟の状況

総合内科医師の減少等に伴い、入院患者数が減少している状況に対応し、効率的な病床運営を図るため、1病棟休止を含む、平成30年10月1日に病棟再編を実施



※令和元年11月1日から、江別市立病院産婦人科における分娩件数の増加に対応するため、東3病棟の一部は西3病棟の一部として計47床で運用（稼働病床数　296床）

江別市立病院における病棟運用の現状イメージ図



江別市立病院　患者数の状況（1日平均患者数）

診療科	外来			入院		
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
内科	191.9	174.4	136.5	110.2	79.7	43.6
呼吸器科	3.6	3.6	4.7			
消化器科	21.4	22.2	20.7	4.0	6.9	7.7
循環器科	26.8	29.9	28.9	7.3	14.0	11.6
内科計	243.7	230.0	190.8	121.5	100.6	62.9
小児科	39.8	38.4	35.3	8.3	7.5	7.2
外科	23.4	23.4	23.2	13.0	14.3	14.3
整形外科	78.3	80.3	71.4	40.3	40.0	44.8
産婦人科	48.6	41.0	41.9	12.5	12.4	12.3
皮膚科	31.1	32.6	27.4			
耳鼻科	34.8	34.4	33.4	2.7	2.9	3.0
眼科	49.2	47.2	46.4	3.6	3.8	3.4
泌尿器科	31.2	33.7	33.6	5.6	7.5	7.7
麻酔科	17.1	16.0	14.8	5.8	5.9	3.5
一般合計	597.2	577.0	518.2	213.6	194.9	159.1
精神科	105.4	97.1	92.6	34.0	24.9	23.3
合計	702.6	674.1	610.8	247.6	219.8	182.4

江別市病院事業会計決算の推移（平成26年度～平成30年度）

区　　分	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額
【収益的収入及び支出】					（単位：千円）
Ⅰ病院事業収益	7,011,224	6,942,411	6,927,840	6,519,662	5,807,518
1 医業収益	6,167,364	6,208,260	6,273,166	5,899,703	5,182,804
⑴診療収益	5,696,146	5,766,154	5,801,916	5,440,079	4,742,978
入院収益	3,504,359	3,677,609	3,729,679	3,441,752	2,923,782
外来収益	2,191,787	2,088,545	2,072,237	1,998,327	1,819,196
⑵その他医業収益	471,218	442,106	471,250	459,624	439,826
（うち一般会計繰入金）	369,210	340,681	355,015	356,057	329,591
2 医業外収益	772,863	662,371	654,674	619,959	624,714
（うち一般会計繰入金）	685,827	587,168	591,778	561,415	565,186
3 特別利益	70,997	71,780	0	0	0
（うち一般会計繰入金）	70,997	71,780	0	0	0
Ⅱ病院事業費用	7,392,585	7,420,485	7,387,961	7,212,727	6,946,639
1 医業費用	6,870,665	7,112,603	7,111,643	6,965,265	6,723,353
2 医業外費用	305,143	282,352	258,144	231,605	215,514
3 特別損失	216,777	25,530	18,174	15,857	7,772
収益的収支差し引き	△381,361	△478,074	△460,121	△693,065	△1,139,121
収益的収支差し引き（繰入金なし）	△1,507,395	△1,477,703	△1,406,914	△1,610,537	△2,033,898
【資本的収入及び支出】					（単位：千円）
Ⅰ資本的収入	934,420	799,264	706,309	694,131	650,220
（うち一般会計繰入金）	350,020	404,364	449,452	477,318	491,220
Ⅱ資本的支出	1,274,319	1,193,613	997,065	1,137,089	1,104,704
資本的収支差し引き	△339,899	△394,349	△290,756	△442,958	△454,484
資本的収支差し引き（繰入金なし）	△689,919	△798,713	△740,208	△920,276	△945,704
【純損益】					（単位：千円）
純損益	△385,720	△481,785	△462,811	△695,413	△1,141,339
純損益（繰入金なし）	△1,511,754	△1,481,414	△1,409,604	△1,612,885	△2,036,116
【一般会計繰入金及び地方交付税推計額】					（単位：千円）
一般会計繰入金合計額	1,476,054	1,403,993	1,396,245	1,394,790	1,385,997
交付税措置額（推計）	679,119	692,001	740,518	737,850	740,090
繰入金に対する交付税の割合	46.0%	49.3%	53.0%	52.9%	53.4%

２ 地域医療の現状

札幌医療圏の状況 （北海道地域医療構想より抜粋）

■概 況

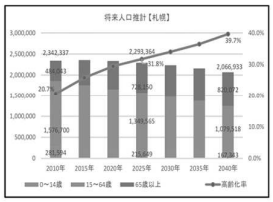
市 町 村 数	6市1町1村	札幌市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村
面 積	3,539.9km²	
人 口	2,365,114人	[高齢化率] 25.0%（全道 28.8%）
単身高齢者世帯数割合	9.0%	全道 10.8%
介護関係基盤の整備状況	68.0人(室)	全道 68.9人(室)
入 院 自 給 率	98.3%	
他区域への主な流出	-	後志(0.4%)、南空知(0.4%)
他区域からの主な流入	-	後志(25.4%)、南空知(24.0%)、日高(22.0%)
人口10万当たり 医 師	281.2人	全道 230.2人
医療従事者数 看護師・准看護師	1,304.4人	全道 1,324.3人

※上記数値の出典等は、「全道の概況」に記載

■将来推計人口

○ 札幌構想区域の総人口は、平成22(2010)年に約234万人であったものが平成37(2025)年には約229万人、平成52(2040)年には約206万人まで減少すると推計されています。

○ 65歳以上人口は、2010年に48万人であったものが2025年には72万人、2040年には82万人と増加し、総人口の減少の影響もあり、将来的に高齢化率は上昇していくと推計されています。

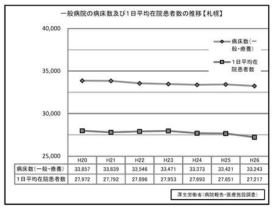


■医療提供体制の現状

○ 区域内の一般病院の病床数（一般・療養病床）は、平成20年度の33,857床が平成26年度には33,243床となり、614床の減（▲1.8%）となっています。

○ １日平均在院患者数は、人口減少等の影響により、平成20年度の27,972人が平成26年度には27,217人となり、755人の減（▲2.7%）となっています。

○ 平均病床利用率は、一般病床は全道平均と同程度の70%台で推移しており、療養病床は全道平均を上回る90%台の高い利用率を維持しています。



区 分		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
平均病床利用率	一般病床	76.8%	76.4%	77.9%	78.9%	78.0%	78.2%	77.1%
	療養病床	94.0%	94.9%	95.0%	95.0%	94.8%	94.2%	93.2%

■平成37（2025）年に必要とされる病床数の推計［必要病床数］

平成27（2015）年度病床機能報告制度（稼働病床数）と平成37（2025）年の必要病床数との比較

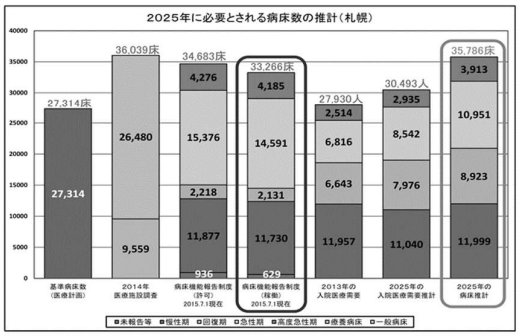
- 札幌圏域においては、平成37（2025）年以降も医療需要が増加すると見込まれていることから、平成37（2025）年以降を見据えた対応が必要となります。
- 患者の流出入が多い圏域であり、今後も患者の流出入の状況を継続的に把握していく必要があります。

【高度急性期、急性期、回復期】

高度急性期、急性期、回復期について将来必要となる病床数の合計が、現在の病床数を上回っていますが、高度急性期と急性期の合計については、現在の病床数が将来の必要数を上回っており、一方で回復期病床が不足することから、急性期等から回復期への転換などが必要です。

【慢性期】

慢性期病床については、在宅医療等により一定程度対応することで、必要病床数は現在と大きく変わらない推計となっています。



【在宅医療等】

療養病床の一定割合は将来的に在宅医療等で対応する仮定で推計を行っており、この場合、平成37年には、44,509人（うち訪問診療23,576人）の在宅医療等の確保が必要となります。

2025年の推計	病床機能別					在宅医療等	
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計		うち訪問診療
医療需要(人)	2,935	8,542	7,976	11,040	30,493	44,509	23,576
必要病床数(床)	3,913	10,951	8,923	11,999	35,786		

札幌圏域における重点課題

○道では今年度、圏域ごとに「重点課題」を設定し、関係者で認識共有を図りつつ、具体的な取り組みに向けた集中的な議論を促していく方針。

○札幌圏域は、多くの地域で、2025年以降も2040年に向けて高齢者人口が大幅に増加する点、公立・公的医療機関のほか多数の民間医療機関が医療を提供している点において、他の地域と大きく異なり、調整会議等行政が主導する場において、個々の医療機関の役割・機能等について議論を深めていくことは困難である。

○また、圏域内でも、例えば、札幌市以外の市町村では、患者の受療動向（入院自給率、流出率の高い地域など）が異なる状況

○札幌圏域では、2040年に向けて、各医療機関における中長期的な視野に立った検討・取組に資するよう、まずは、受療動向等を踏まえつつ、**各地域で顔の見える連携体制（互いの現状・課題を継続的に共有する場）を構築**することを「重点課題」として取組を進める考え。

（第8回札幌圏域地域医療構想調整会議資料より抜粋）

江別市内医療機関一覧－1

【内科】

江別地区	野幌地区	大麻地区
あさひ町南大通クリニック	江別循環器	高橋内科医院
たぐち内科クリニック	ゆきざさ循環器内科	おおあさ鈴木ファミリークリニック
みはらしクリニック	のっぽろクリニック	おおあさクリニック
江別内科クリニック	おくの内科胃腸科クリニック	むらかみ内科クリニック
はまもと内科クリニック	ささなみ内科クリニック	高橋内科医院三番通りクリニック
	緑苑クリニック	江別訪問診療所
	片山内科胃腸科医院	大麻内視鏡内科クリニック
	アウル内科クリニック	北町クリニック
	紺野内科医院	ウルトラ内科小児科クリニック
	平賀内科クリニック	
	内科循環器科白樺通りクリニック	
5	11	9

【小児科】

江別地区	野幌地区	大麻地区
よしなりこどもクリニック	とがし小児科	
松尾こどもクリニック	あずま子ども家庭クリニック	
	こんの小児科医院	
	おおぬま小児科	
2	4	0

【脳神経外科・神経内科】

江別地区	野幌地区	大麻地区
えべつ神経内科	江別脳神経外科	
	江別谷藤脳神経クリニック	
1	2	0

【外科・整形外科】

江別地区	野幌地区	大麻地区
成田整形外科		池永クリニック
たけだ整形外科クリニック		なかざわ整形外科クリニック
郷外科医院		ないとうクリニック
江別やまもと整形外科		
4	0	3

出典） 江別市医療機関ガイドブック（平成31年3月発行）

江別市内医療機関一覧－2

【皮膚科】

江別地区	野幌地区	大麻地区
江別皮膚科クリニック	野幌皮膚科医院	おおあさ皮フ科クリニック
1	1	1

【眼科】

江別地区	野幌地区	大麻地区
近藤眼科	野幌眼科	はやし眼科
江別こばやし眼科	おかざき眼科	
江別大木眼科クリニック	川口眼科クリニック	
3	3	1

【耳鼻咽喉科】

江別地区	野幌地区	大麻地区
佐伯耳鼻咽喉科クリニック		みみ はな のど はらだクリニック
おおぐろ耳鼻咽喉科		いとう耳鼻咽喉科医院
もりもと耳鼻咽喉科クリニック		くろだ耳鼻咽喉科クリニック
3	0	3

【泌尿器科】

江別地区	野幌地区	大麻地区
泌尿器科さいとうクリニック	江別泌尿器科	
1	1	0

【産婦人科】

江別地区	野幌地区	大麻地区
プリモウイメンズクリニック		
1	0	0

【心療内科・精神科】

江別地区	野幌地区	大麻地区
ルピナスクリニック江別心療内科医院	江別こころのクリニック	おおあさ高町クリニック
1	1	1

【合計】

江別地区	野幌地区	大麻地区
22	23	18

江別市内医療機関一覧－3

【人口10万人対一般診療所数】

江別地区	野幌地区	大麻地区
46.3	54.0	62.3

【人口（平成30年10月1日現在）】 （人）

江別地区	野幌地区	大麻地区
47,494	42,572	28,905

【再掲：訪問診療実施診療所】

江別地区	野幌地区	大麻地区
あさひ町南大通クリニック	のっぽろクリニック	おおあさ鈴木ファミリークリニック
江別内科クリニック	ささなみ内科クリニック	おおあさクリニック
えべつ神経内科		江別訪問診療所
		北町クリニック
		ないとうクリニック
		江別こころのクリニック
		大麻高町クリニック

江別市医師会開業医　科目別年齢別構成 （江別市医師会調べ）
診療所　江別

	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
内科	1	2	9	5	4	1	22
小児科		1	2		3		6
外科				2	2		4
整形外科			2	3			5
脳神経外科			2				2
眼科		1	2	4	1		8
耳鼻咽喉科		1	2	2			5
泌尿器科		1		1			2
皮膚科	1			2			3
精神科			1	1			2
産婦人科					1		1
神経内科				1			1
麻酔科							0
合計	2	6	20	21	11	1	61

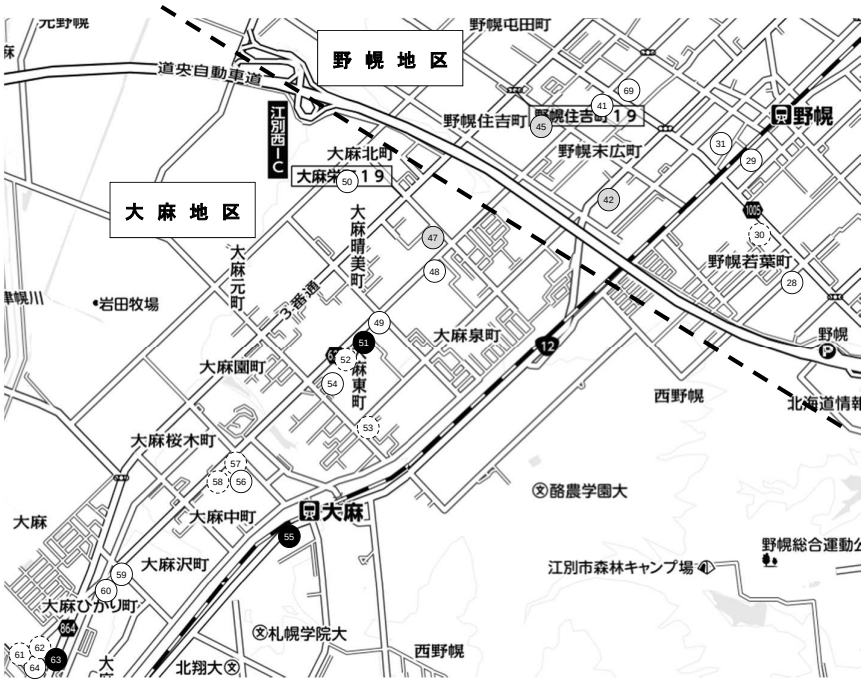
江別市内医療機関位置図－1

1 ルピナスクリニック江別心療内科医院	23 おくの内科胃腸科クリニック
2 江別皮膚科クリニック	24 おかざき眼科
3 よしなりこどもクリニック	25 江別大木眼科クリニック
4 はまもと内科クリニック	26 野幌皮膚科医院
5 えべつ神経内科	27 江別市夜間急病センター
6 紺野内科医院	32 野幌眼科
7 松尾こどもクリニック	33 江別循環器
8 もりもと耳鼻咽喉科クリニック	34 江別脳神経外科
9 江別やまもと整形外科	35 たけだ整形外科クリニック
10 郷外科医院	36 みはらしクリニック
11 川口眼科クリニック	37 おおぐろ耳鼻咽喉科
12 平賀内科クリニック	38 江別内科クリニック
13 江別谷藤脳神経クリニック	39 こんの小児科医院
14 近藤眼科	40 片山内科胃腸科医院
15 佐伯耳鼻咽喉科クリニック	43 江別こころのクリニック
16 泌尿器科さいとうクリニック	44 のっぽろクリニック
17 江別こばやし眼科	46 ゆきざさ循環器内科
18 成田整形外科	65 江別市立病院
19 たぐち内科クリニック	66 江別すずらん病院
20 プリモウイメンズクリニック	67 江別谷藤病院
21 おおぬま小児科	68 野幌病院
22 あさひ町南大通クリニック	70 友愛記念病院

① =内科系
① =小児科系
❶ =外科・整形系
① =その他診療科

出典）北海道厚生局　医療機関一覧

江別市内医療機関位置図－2



28 内科循環器科白樺通りクリニック
29 アウル内科クリニック
30 江別泌尿器科
31 ささなみ内科クリニック
41 緑苑クリニック
42 とがし小児科
45 あずま子ども家庭クリニック
47 ウルトラ内科小児科クリニック
48 むらかみ内科クリニック
49 江別訪問診療所
50 北町クリニック
51 ないとうクリニック
52 いとう耳鼻咽喉科医院
53 おおあさ高町クリニック
54 大麻内視鏡内科クリニック
55 池永クリニック
56 おおあさクリニック
57 はやし眼科
58 くろだ耳鼻咽喉科クリニック
59 おおあさ鈴木ファミリークリニック
60 高橋内科医院
61 おおあさ皮フ科クリニック
62 みみ はな のど はらだクリニック
63 なかざわ整形外科クリニック
64 高橋内科医院三番通りクリニック
69 渓和会江別病院

① =内科系
① =小児科系
❶ =外科・整形系
① =その他診療科

出典）北海道厚生局　医療機関一覧

江別市内医療機関（病院） 機能一覧

No.	区分	病棟		該当診療科			病床機能分類					病床利用率
		入院基本料	一/療				高度急性期	急性期	回復期	慢性期	未回答	
1	江別市立病院	一般病棟7対1入院基本料	一般	内科	小児科	耳鼻咽喉科	0	50	0	0	0	70.9%
1	江別市立病院	一般病棟7対1入院基本料	一般	産婦人科	麻酔科	眼科	0	38	0	0	0	61.7%
1	江別市立病院	一般病棟7対1入院基本料	一般	整形外科	内科	-	0	50	0	0	0	85.2%
1	江別市立病院	一般病棟7対1入院基本料	一般	外科	消化器内科	泌尿器科	0	48	0	0	0	59.2%
1	江別市立病院	地域包括ケア病棟入院料1	一般	内科	整形外科	麻酔科	0	44	0	0	0	62.2%
1	江別市立病院	一般病棟7対1入院基本料	一般	内科	循環器内科	-	0	48	0	0	0	78.6%
2	医療法人社団藤花会　江別谷藤病院	一般病棟10対1入院基本料	一般	整形外科	内科	脳神経外科	0	42	0	0	0	95.4%
2	医療法人社団藤花会　江別谷藤病院	障害者施設等10対1入院基本料	一般	整形外科	内科	脳神経外科	0	0	0	40	0	103.9%
2	医療法人社団藤花会　江別谷藤病院	障害者施設等10対1入院基本料	一般	整形外科	内科	脳神経外科	0	0	0	40	0	103.9%
3	医療法人友愛会　友愛記念病院	療養病棟入院基本料2	療養	内科	-	-	0	0	0	37	0	95.1%
3	医療法人友愛会　友愛記念病院	療養病棟入院基本料2	療養	内科	-	-	0	0	0	36	0	97.7%
3	医療法人友愛会　友愛記念病院	認知症治療病棟	精神	精神科	-	-	-	-	-	-	-	-
3	医療法人友愛会　友愛記念病院	介護療養病棟	介護	内科	-	-	0	0	0	60	0	-
4	医療法人渓和会　江別病院	一般病棟10対1入院基本料	一般	脳神経外科	整形外科	-	0	46	0	0	0	65.1%
4	医療法人渓和会　江別病院	一般病棟10対1入院基本料	一般	外科	-	-	0	52	0	0	0	69.5%
4	医療法人渓和会　江別病院	一般病棟10対1入院基本料	一般	消化器内科	-	-	0	52	0	0	0	70.8%
4	医療法人渓和会　江別病院	一般病棟10対1入院基本料	一般	循環器内科	呼吸器内科	-	0	50	0	0	0	62.0%
5	医療法人英生会　野幌病院	一般病棟10対1入院基本料	一般	内科	整形外科	-	0	23	0	0	0	84.9%
5	医療法人英生会　野幌病院	療養病棟入院基本料2	療養	内科	整形外科	-	0	0	0	46	0	92.5%
6	医療法人風のすずらん会　江別すずらん病院	精神科一般病棟	精神	精神科	-	-	-	-	-	-	-	-
6	医療法人風のすずらん会　江別すずらん病院	精神科療養病棟	精神	精神科	-	-	-	-	-	-	-	-
6	医療法人風のすずらん会　江別すずらん病院	精神科急性期治療病棟	精神	精神科	-	-	-	-	-	-	-	-
6	医療法人風のすずらん会　江別すずらん病院	認知症治療病棟	精神	精神科	-	-	-	-	-	-	-	-

参考）厚生労働省　H29年病床機能報告

江別市内医療機関（病院） 機能一覧　1

医療機関名			江別市立病院	医療法人社団藤花会 江別谷藤病院	医療法人友愛会 友愛記念病院	医療法人渓和会 江別病院	医療法人英生会 野幌病院	医療法人風のすずらん会 江別すずらん病院
情報更新年月日			2018/8/7	2019/7/25	2018/7/13	2018/7/30	2018/7/18	2018/7/30
病床数	許可病床数		337	122	212	200	69	234
	高度急性期		0	0	0	0	0	0
	急性期		278	42	0	200	23	0
	回復期		0	0	0	0	0	0
	慢性期		0	80	133	0	46	0
	精神		59	ー	79	ー	ー	234
医師、歯科医師、薬剤師、看護師その他の医療従事者の専門性に関する資格	医師	総合内科専門医	4	1	1	5.4		
		循環器専門医	1		1	4.3		
		消化器病専門医	4	1				
		消化器内視鏡専門医	2					
		腎臓専門医	1					
		血液専門医		1				
		外科専門医	4			4.4		
		消化器外科専門医	3			1		
		乳腺専門医	1					
		整形外科専門医	2			1.3		
		脳神経外科専門医		2		3.5		
		産婦人科専門医	2					
		泌尿器科専門医	2					
		小児科専門医	6					
		透析専門医	1	1				
		麻酔科専門医	4	1				
		泌尿器科専門医	2					
		眼科専門医	1					
		耳鼻咽喉科専門医	1					
		ペインクリニック専門医	1					
		精神科専門医	1		1			5
		神経内科専門医						1
	看護師	老人看護専門看護師	1					1
		がん性疼痛看護認定看護師				1		
		緩和ケア認定看護師				1		
		がん化学療法看護認定看護師	2					
		感染管理認定看護師	2	1				
		救急看護認定看護師	1					
		認知症看護認定看護師	2					
		皮膚・排泄ケア認定看護師	2					

出典）北海道医療機能情報システム

江別市内医療機関（病院） 機能一覧 2

医療機関名			江別市立病院	医療法人社団藤花会 江別谷藤病院	医療法人友愛会 友愛記念病院	医療法人渓和会 江別病院	医療法人英生会 野幌病院	医療法人風のすずらん会 江別すずらん病院
情報更新年月日			2018/8/7	2019/7/25	2018/7/13	2018/7/30	2018/7/18	2018/7/30
対応することができる疾患・治療内容	皮膚・形成外科	一次診療	○	○		○	○	
		手術・処置又は検査（○対応可能 ●実績あり）	○	○		○	○	
	神経・脳血管	一次診療	○	○		○	○	
		手術・処置又は検査（○対応可能 ●実績あり）	○	●		●		○
	精神科・神経科	一次診療	○				○	○
		手術・処置又は検査（○対応可能 ●実績あり）	●			○	○	●
	眼	一次診療	○				○	
		手術・処置又は検査（○対応可能 ●実績あり）	●					
	耳鼻咽喉	一次診療	○				○	
		手術・処置又は検査（○対応可能 ●実績あり）	●	○				○
	呼吸器	一次診療	○	○		○	○	○
		手術・処置又は検査（○対応可能 ●実績あり）	○	○	○	●	○	
	消化器系	一次診療	○	○		○	○	○
		手術・処置又は検査（○対応可能 ●実績あり）	●	●	○	●	○	
	肝・胆道・膵臓	一次診療	○	○		○	○	
		手術・処置又は検査（○対応可能 ●実績あり）	●	○		●		
	循環器系	一次診療	○	○		○	○	○
		手術・処置又は検査（○対応可能 ●実績あり）	●	●	●	●	●	
	腎・泌尿器系	一次診療	○			○	○	
		血液透析（○対応可能 ●実績あり）	●	○		○		
	産科	一次診療	○					
		分娩・手術・処置又は検査（○対応可能 ●実績あり）	●					
	婦人科	一次診療	○					
		手術・処置又は検査（○対応可能 ●実績あり）	●					
	乳腺	一次診療	○			○		
		手術・処置又は検査（○対応可能 ●実績あり）	●			●		
	内分泌・代謝・栄養	一次診療	○		○	○	○	
		手術・処置又は検査（○対応可能 ●実績あり）	○	○	○	●	●	
	血液・免疫系	一次診療	○		○	○	○	
		手術・処置又は検査（○対応可能 ●実績あり）	○			○		
	筋・骨格系及び外傷	一次診療	○	○		○	○	
		手術・処置又は検査（○対応可能 ●実績あり）	●	●		●	○	
	リハビリ	摂食機能療法（○対応可能 ●実績あり）	○	○	○	○		○
		疾患別リハビリ（○対応可能 ●実績あり）	●	●	●	●	●	
	小児	一次診療	○					
		手術・処置又は検査（○対応可能 ●実績あり）	●			●		
	麻酔	麻酔管理（○対応可能 ●実績あり）	●	●		●		
		ブロック注射（○対応可能 ●実績あり）	●	○		●	○	
	緩和ケア	医療用麻薬によるがん疼痛治療	○			○	○	
		がんに伴う精神症状のケア	○			○		

出典）北海道医療機能情報システム

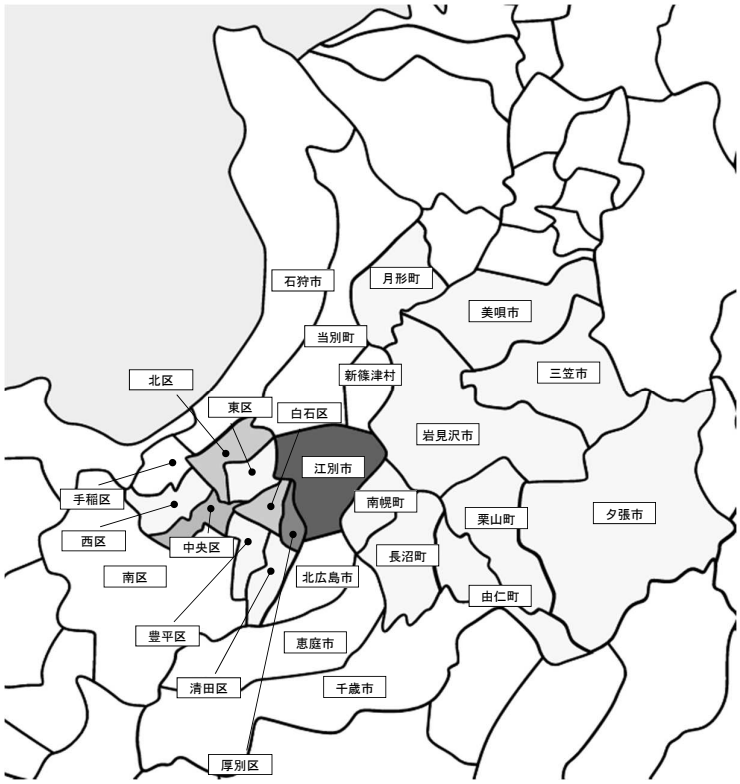
江別市訪問看護ステーション 一覧

No.	事業所名	職員数	住所
1	江別市立病院 訪問看護ステーションいたわり	看護師:7名	江別市若草町6番地
2	一般社団法人 北海道総合在宅ケア事業団 江別訪問看護ステーション	看護師:7名 理学療法士:1名	江別市大麻沢町5番地の6
3	医療法人 友愛会 訪問看護ステーションゆうあい	看護師:3名	江別市新栄台46番地の1
4	株式会社 健康会 訪問看護ステーションおおあさ	看護師:4名 理学療法士:1名	江別市大麻中町3番地の17
5	医療法人 英生会 訪問看護ステーションのっぽろ	看護師:6名 理学療法士:3名 作業療法士:3名	江別市野幌町53番地の5
6	株式会社 ふくろう 訪問看護ステーションあうる	看護師:6名 理学療法士:3名 作業療法士:1名	江別市大麻220番地の31
7	特定非営利活動法人 みのりの丘 訪問看護ステーションみのりの丘	看護師:5名 理学療法士:2名 作業療法士:1名	江別市大麻東町15番地の11
8	株式会社 ヒューマンリンク 訪問看護ステーション 八重の看護	看護師:5名	江別市野幌屯田町20番地の21
9	株式会社 Aライフケア 訪問看護ステーションことり	看護師:4名 理学療法士:1名 作業療法士:2名	江別市5条6丁目15番地の1
10	株式会社 N・フィールド 訪問看護ステーション デューン江別	看護師:9名	江別市大麻桜木町34番地の3

江別市訪問看護ステーション　一覧

1. 江別市立病院訪問看護ステーションいたわり
2. 一般社団法人　北海道総合在宅ケア事業団　江別訪問看護ステーション
3. 医療法人　友愛会　訪問看護ステーションゆうあい
4. 株式会社　健康会　訪問看護ステーションおおあさ
5. 医療法人　英生会　訪問看護ステーションのっぽろ
6. 株式会社　ふくろう　訪問看護ステーションあうる
7. 特定非営利活動法人　みのりの丘　訪問看護ステーションみのりの丘
8. 株式会社　ヒューマンリンク　訪問看護ステーション　八重の看護
9. 株式会社　Aライフケア　訪問看護ステーションことり
10. 株式会社　N･フィールド　訪問看護ステーション　デューン江別

入院患者の受療動向－流出（江別市民が受療した医療機関の所在地）



江別市	56.20%
厚別区	11.42%
中央区	9.14%
白石区	6.75%
東区	6.12%
北区	2.09%
南空知※	1.39%
西区	1.38%
豊平区	1.13%
清田区	1.11%
北広島市	0.86%
手稲区	0.82%
南区	0.58%
恵庭市	0.39%
その他	0.27%
後志	0.15%
新篠津村	0.06%
石狩市	0.05%
千歳市	0.04%
当別町	0.04%

※南空知は岩見沢市、美唄市、三笠市、夕張市、南幌町、由仁町、長沼町、栗山町、月形町

出典）厚生労働省「医療計画作成支援データブック」平成28年度受療動向

病院別救急搬送人員（平成26年～平成30年）

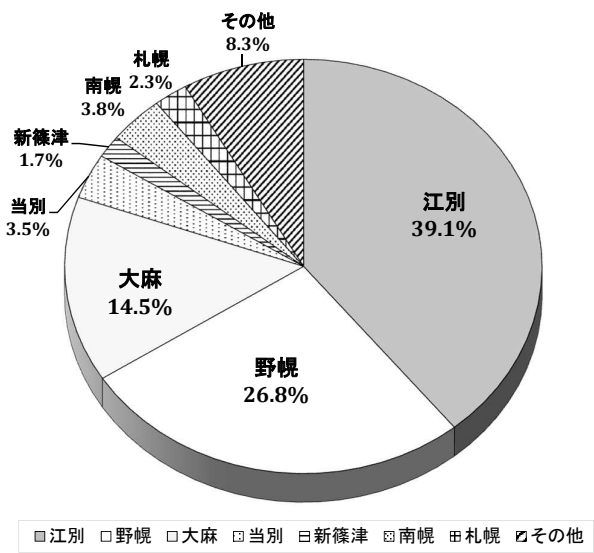
		平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
市内	江別市立病院	1,458	1,334	1,646	1,507	894
	江別市夜間急病センター	3	3	3	1	0
	渓和会江別病院	847	859	913	1,006	1,288
	江別谷藤病院	218	245	214	214	274
	野幌病院	77	82	64	60	64
	その他	121	121	97	94	84
	市内搬送人員	2,724	2,644	2,937	2,882	2,604
市外	札幌東徳洲会病院	452	378	329	354	394
	札幌徳洲会病院	224	241	202	249	529
	勤医協中央病院	132	276	216	277	449
	その他	547	514	566	500	594
	市外搬送人員	1,355	1,409	1,313	1,380	1,966
合計搬送人員		4,079	4,053	4,250	4,262	4,570
市内搬送割合		66.8%	65.2%	69.1%	67.6%	57.0%
市外搬送割合		33.2%	34.8%	30.9%	32.4%	43.0%

※江別市消防本部調べ

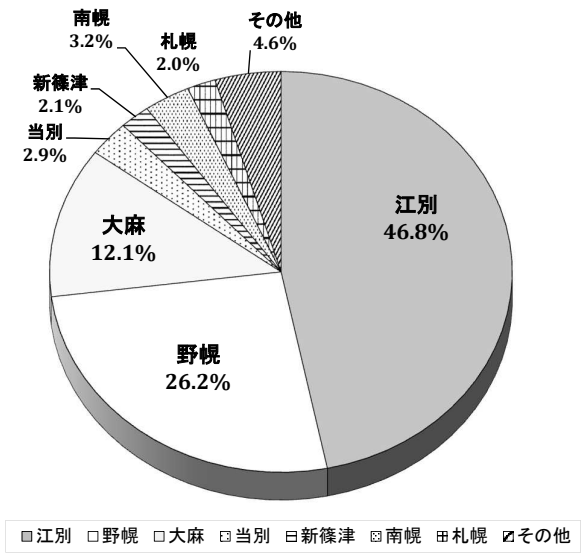
※数値は1月から12月までの集計

江別市立病院　平成30年度地区別受診者割合

【 入 院 】



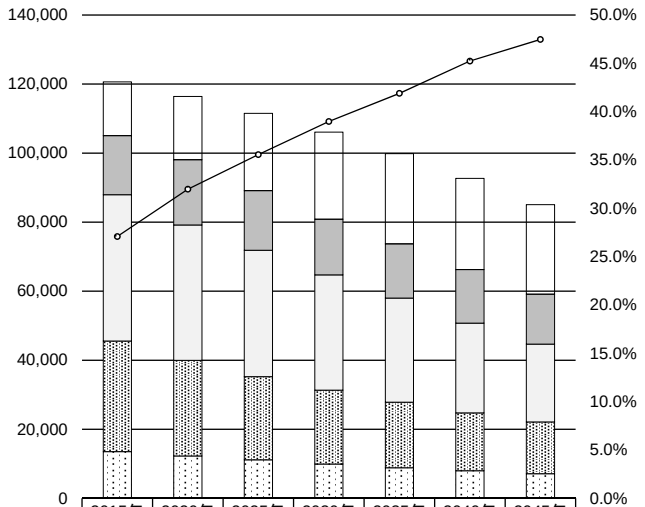
【 外 来 】



出典）江別市立病院　患者情報

外部環境　ー人口推移ー

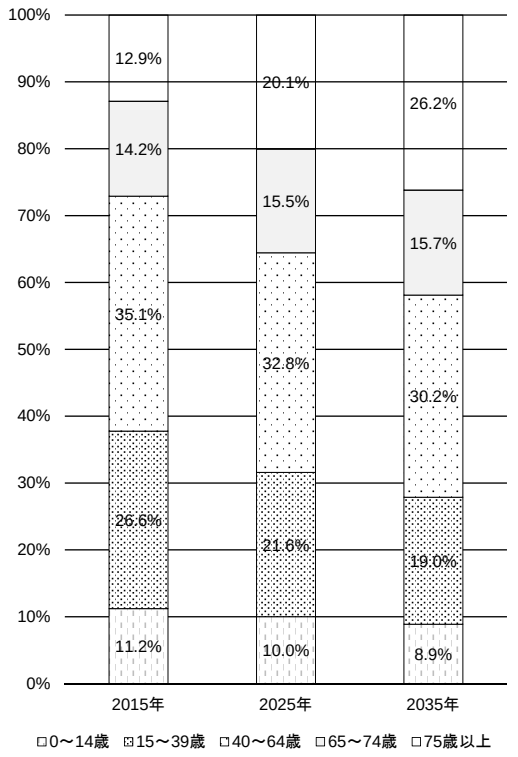
【　江別市将来推計人口と高齢化率　】



	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
75歳以上	15,564	18,317	22,362	25,235	26,158	26,441	25,919
65～74歳	17,107	18,911	17,291	16,119	15,677	15,495	14,464
40～64歳	42,391	39,230	36,629	33,372	30,184	26,014	22,543
15～39歳	32,050	27,669	24,069	21,410	18,978	16,746	15,005
0～14歳	13,524	12,302	11,168	9,946	8,874	8,010	7,136
高齢化率	27.1%	32.0%	35.6%	39.0%	41.9%	45.2%	47.5%

0～14歳　15～39歳　40～64歳　65～74歳　75歳以上　高齢化率

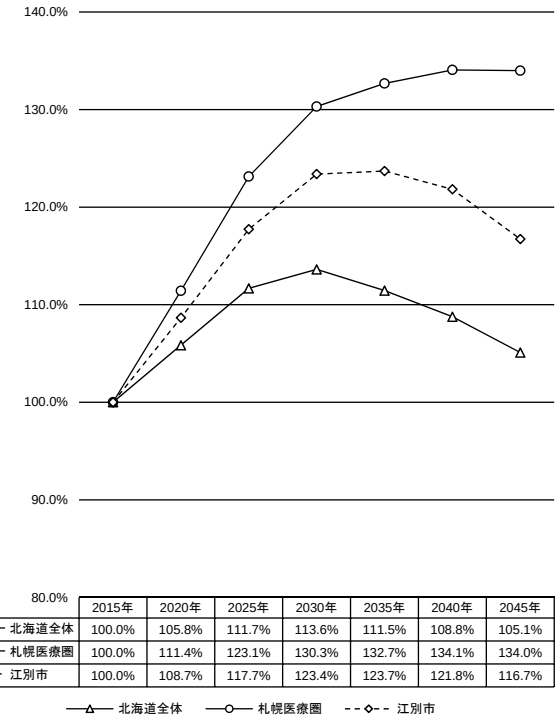
【　江別市年齢別人口割合推移　】



出典）国立社会保障・人口問題研究所（2018年3月推計）

将来の患者推計　年齢構成別受療率×将来の人口推計（年齢構成別）

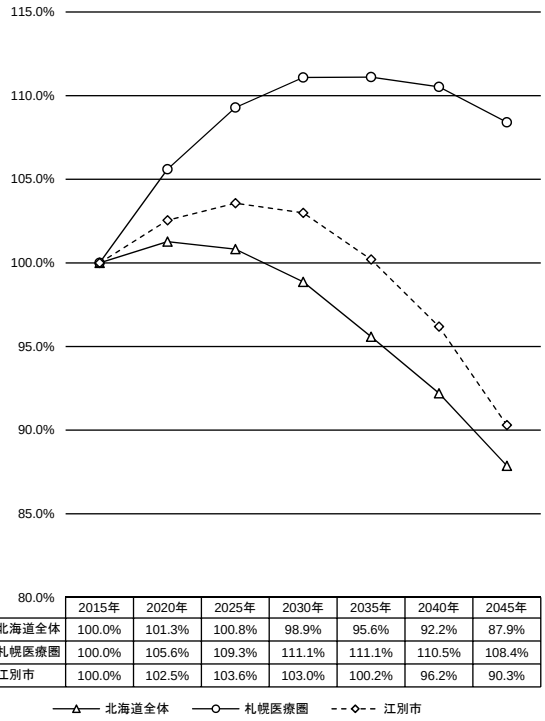
【　入院患者推計　伸び率　】



	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
北海道全体	100.0%	105.8%	111.7%	113.6%	111.5%	108.8%	105.1%
札幌医療圏	100.0%	111.4%	123.1%	130.3%	132.7%	134.1%	134.0%
江別市	100.0%	108.7%	117.7%	123.4%	123.7%	121.8%	116.7%

北海道全体　札幌医療圏　江別市

【　外来患者推計　伸び率　】



	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
北海道全体	100.0%	101.3%	100.8%	98.9%	95.6%	92.2%	87.9%
札幌医療圏	100.0%	105.6%	109.3%	111.1%	111.1%	110.5%	108.4%
江別市	100.0%	102.5%	103.6%	103.0%	100.2%	96.2%	90.3%

北海道全体　札幌医療圏　江別市

出典）年齢構成別受療率は厚生労働省平成29年（2017）患者調査より算出

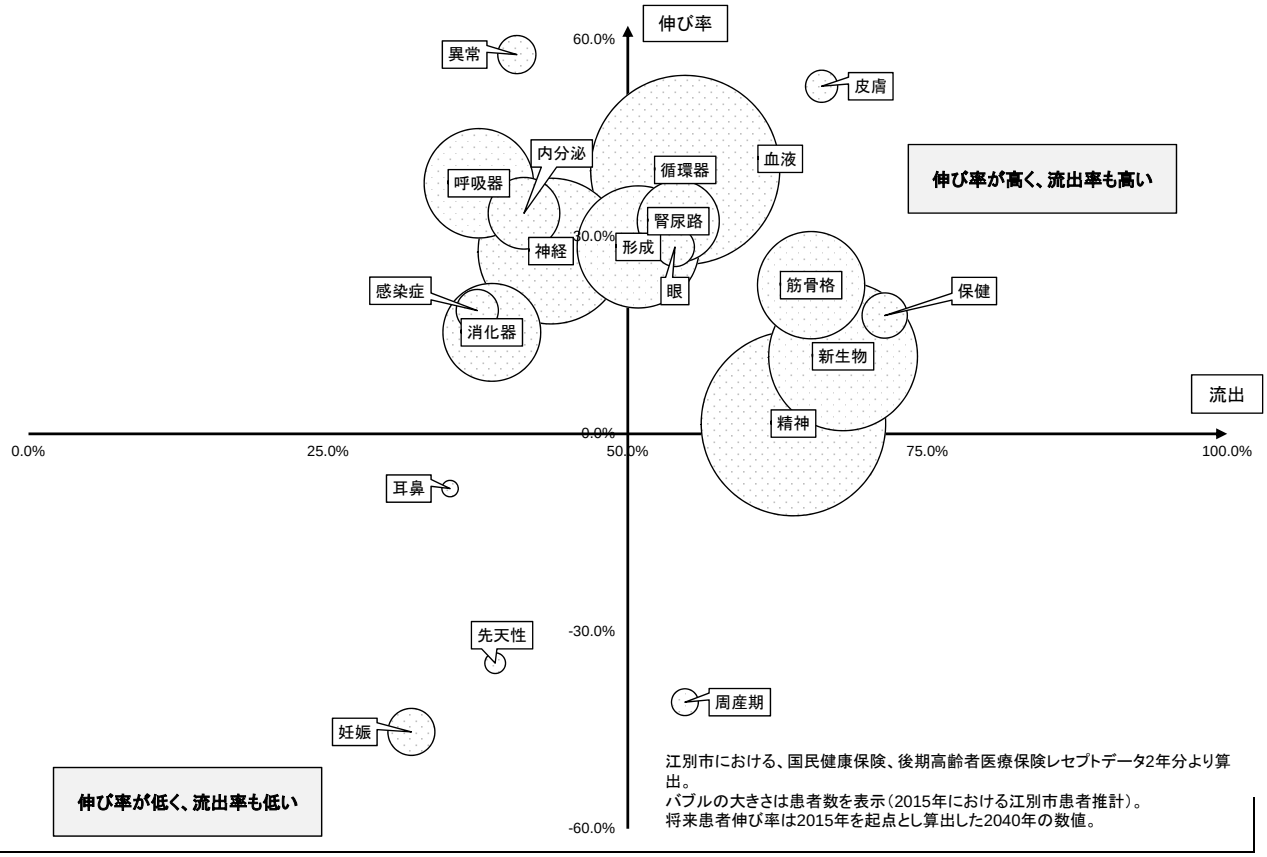
３　江別市立病院が担うべき医療に関する事項

江別市における将来患者伸び率と市外流出率

	入院							外来						
	流出率	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	流出率	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
総　　数	52.6%	8.6%	17.9%	23.7%	24.1%	22.2%	17.2%	21.3%	1.3%	1.0%	-0.5%	-3.9%	-8.4%	-14.2%
Ⅰ　感染症及び寄生虫症	37.4%	8.6%	16.4%	21.0%	20.9%	18.7%	13.4%	17.2%	-2.8%	-6.5%	-10.9%	-16.0%	-21.2%	-27.4%
Ⅱ　新生物＜腫瘍＞	68.0%	7.4%	12.4%	15.1%	14.2%	11.8%	6.3%	55.3%	3.7%	4.6%	4.0%	1.2%	-2.9%	-9.0%
Ⅲ　血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	62.7%	15.2%	28.6%	38.1%	41.0%	41.8%	37.5%	52.4%	-0.2%	0.0%	-1.2%	-4.8%	-10.0%	-16.1%
Ⅳ　内分泌，栄養及び代謝疾患	41.3%	11.2%	24.3%	32.9%	34.5%	33.5%	28.8%	17.5%	5.0%	7.0%	7.3%	5.2%	1.6%	-4.2%
Ⅴ　精神及び行動の障害	63.8%	4.4%	6.9%	7.6%	5.4%	1.6%	-4.3%	34.0%	-5.0%	-11.0%	-17.1%	-23.1%	-30.0%	-36.7%
Ⅵ　神経系の疾患	43.6%	9.3%	20.9%	28.4%	29.4%	27.8%	22.9%	25.2%	3.5%	7.2%	8.7%	6.7%	3.0%	-2.6%
Ⅶ　眼及び付属器の疾患	53.9%	11.4%	21.5%	28.2%	29.3%	28.4%	23.5%	17.0%	2.2%	2.8%	2.0%	-0.7%	-4.5%	-10.2%
Ⅷ　耳及び乳様突起の疾患	35.2%	-0.9%	1.7%	1.6%	-2.3%	-8.3%	-14.6%	20.7%	-2.4%	-5.9%	-10.3%	-15.3%	-20.5%	-26.7%
Ⅸ　循環器系の疾患	54.8%	12.7%	27.7%	37.9%	40.4%	40.1%	35.7%	15.7%	8.9%	15.5%	19.4%	19.2%	17.2%	11.9%
Ⅹ　呼吸器系の疾患	37.6%	11.3%	26.2%	36.3%	38.5%	38.1%	33.7%	11.7%	-5.2%	-10.7%	-16.7%	-22.7%	-28.6%	-35.0%
ⅩⅠ 消化器系の疾患	38.7%	7.2%	14.2%	18.3%	17.9%	15.4%	10.1%	26.4%	-1.5%	-4.6%	-8.4%	-13.1%	-18.8%	-25.3%
ⅩⅡ 皮膚及び皮下組織の疾患	66.2%	16.2%	34.5%	47.5%	51.6%	52.8%	48.9%	19.3%	-3.5%	-7.0%	-11.3%	-16.4%	-22.1%	-28.4%
ⅩⅢ 筋骨格系及び結合組織の疾患	65.3%	9.3%	18.2%	23.9%	24.3%	22.6%	17.5%	25.6%	5.4%	8.9%	10.4%	8.7%	5.4%	-0.3%
ⅩⅣ 腎尿路生殖器系の疾患	54.2%	11.3%	23.6%	31.8%	33.3%	32.3%	27.5%	25.1%	3.0%	3.6%	2.9%	0.1%	-4.1%	-10.1%
ⅩⅤ 妊娠，分娩及び産じょく	31.9%	-12.6%	-22.8%	-31.1%	-38.1%	-45.3%	-51.3%	38.7%	-12.4%	-22.5%	-30.7%	-37.8%	-45.1%	-51.1%
ⅩⅥ 周産期に発生した病態	54.8%	-9.0%	-17.4%	-26.5%	-34.4%	-40.8%	-47.2%	18.6%	-9.0%	-17.4%	-26.5%	-34.4%	-40.8%	-47.2%
ⅩⅦ 先天奇形，変形及び染色体異常	38.9%	-8.1%	-14.7%	-21.7%	-28.5%	-34.8%	-41.1%	24.9%	-6.4%	-15.3%	-23.6%	-30.3%	-36.4%	-42.8%
ⅩⅧ 症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	40.7%	16.6%	37.1%	51.6%	56.2%	57.6%	53.9%	15.5%	-0.2%	-1.4%	-3.7%	-7.4%	-11.9%	-17.8%
ⅩⅨ 損傷，中毒及びその他の外因の影響	50.9%	9.8%	21.2%	28.7%	29.8%	28.4%	23.6%	32.3%	-1.1%	-2.8%	-5.4%	-9.5%	-14.6%	-20.6%
ⅩⅩⅠ 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	71.4%	6.2%	15.1%	20.6%	20.4%	18.0%	12.9%	12.6%	-0.2%	-1.7%	-4.3%	-8.2%	-12.9%	-18.9%

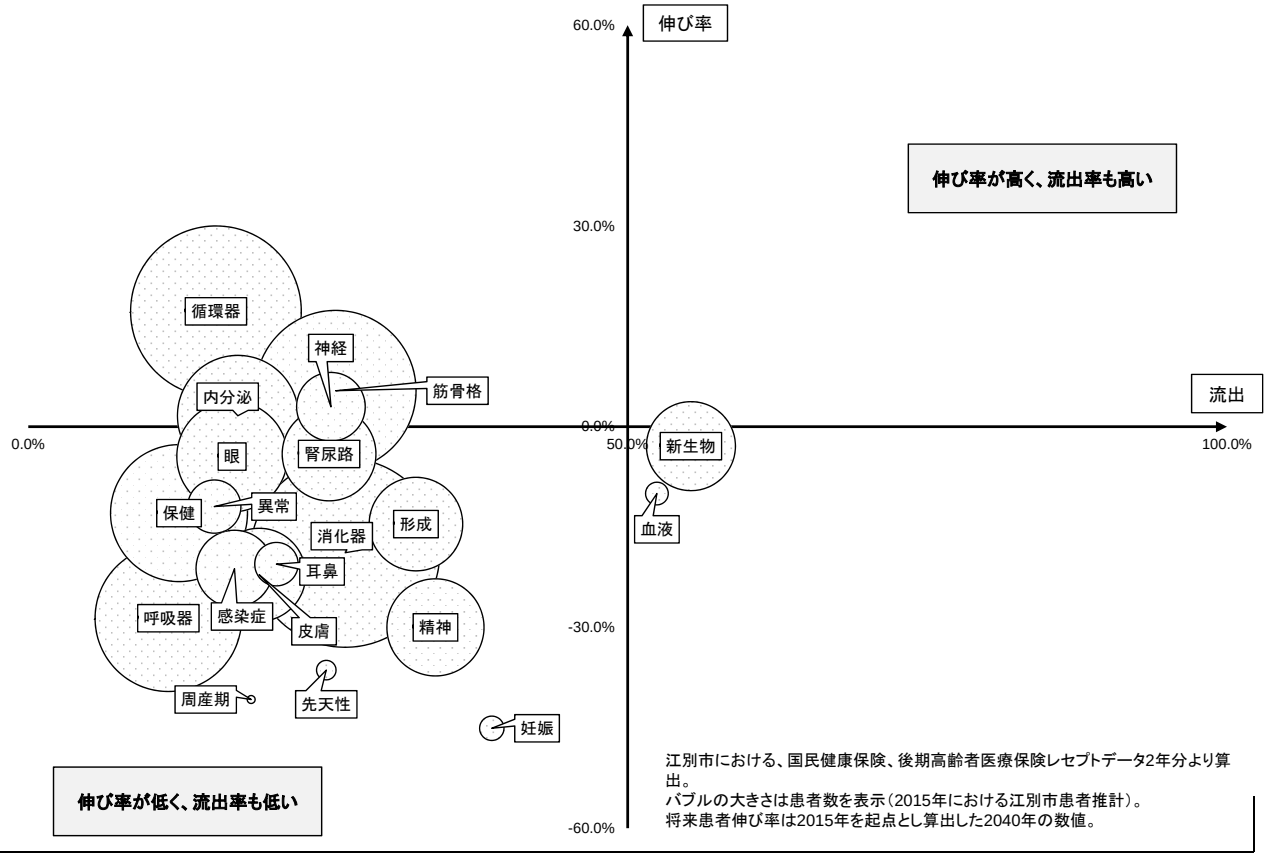
江別市における、国民健康保険、後期高齢者医療保険レセプトデータ2年分より算出。
将来患者伸び率は2015年を起点とし算出した。

江別市における患者流出率と患者伸び率（入院）



江別市における、国民健康保険、後期高齢者医療保険レセプトデータ2年分より算出。
バブルの大きさは患者数を表示（2015年における江別市患者推計）。
将来患者伸び率は2015年を起点とし算出した2040年の数値。

江別市における患者流出率と患者伸び率（外来）



江別市における、国民健康保険、後期高齢者医療保険レセプトデータ2年分より算出。
バブルの大きさは患者数を表示（2015年における江別市患者推計）。
将来患者伸び率は2015年を起点とし算出した2040年の数値。

札幌市中央区　主要医療機関配置図

DPC総症例数、年間120件以上の医療機関のみ配置

施設名	総病床数	総症例数
1 札幌医科大学附属病院	938	14,568
2 市立札幌病院	703	14,548
3 JA北海道厚生連　札幌厚生病院	515	9,741
4 国家公務員共済組合連合会　斗南病院	243	8,134
5 NTT東日本札幌病院	301	7,501
6 JR札幌病院	312	4,961
7 社会医療法人医仁会　中村記念病院	499	3,463
8 時計台記念病院	250	3,050
9 社会医療法人　北海道循環器病院	95	2,911
10 医療法人藻友会札幌いしやま病院	60	2,657
11 札幌南三条病院	99	2,317
12 社会医療法人鳩仁会　札幌中央病院	180	2,214
13 札幌循環器病院	89	1,389
14 医療法人　札幌円山整形外科病院	110	1,118
15 医療法人　萬田記念病院	60	906
16 一般財団法人　札幌同交会病院	166	735
17 医療法人社団　土田病院	134	586
18 医療法人讃生会　宮の森記念病院	92	239

札幌市厚別区　主要医療機関配置図

DPC総症例数、年間120件以上の医療機関のみ配置

施設名	総病床数	総症例数
1 医療法人　徳洲会　札幌徳洲会病院	301	6,386
2 独立行政法人地域医療機能推進機構 札幌北辰病院	238	5,453
3 医療法人豊和会　新札幌豊和会病院	140	2,421
4 医療法人社団悠仁会　羊ケ丘病院	68	2,132
5 新札幌循環器病院	99	1,515
6 医療法人社団豊志会　肛門科なかやま病院	47	778
7 医療法人　新さっぽろ脳神経外科病院	135	737
8 医療法人徹仁会　厚別耳鼻咽喉科病院	44	528

札幌市白石区　主要医療機関配置図

DPC総症例数、年間120件以上の医療機関のみ配置

	施設名	総病床数	総症例数
1	独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター	415	5,956
2	社会医療法人　恵佑会札幌病院	229	4,572
3	社会医療法人　北楡会札幌北楡病院	281	4,152
4	社会医療法人　恵佑会第2病院	135	3,244
5	社会医療法人医翔会　札幌白石記念病院	103	2,292
6	医療法人　東札幌病院	243	1,821
7	公益社団法人北海道勤労者医療協会 勤医協札幌病院	105	825

札幌市東区　主要医療機関配置図

DPC総症例数、年間120件以上の医療機関のみ配置

	施設名	総病床数	総症例数
1	勤医協中央病院	450	10,036
2	医療法人　徳洲会　札幌東徳洲会病院	325	8,369
3	札幌心臓血管クリニック	74	5,436
4	天使病院	260	4,791
5	社会医療法人禎心会　札幌禎心会病院	243	3,495
6	医療法人社団　札幌道都病院	188	2,561
7	医療法人　彰和会　北海道消化器科病院	178	2,400
8	北光記念病院	112	1,644
9	医療法人札幌麻生脳神経外科病院	145	1,445
10	社会医療法人社団愛心館 愛心メモリアル病院	71	1,330
11	医療法人社団　我汝会さっぽろ病院	50	1,168
12	医療法人社団豊生会　東苗穂病院	161	1,163
13	医療法人エム・ティー・エヌ 北海道泌尿器科記念病院	40	952
14	社会医療法人　耳鼻咽喉科麻生病院	35	670
15	社会医療法人社団三草会　クラーク病院	225	526
16	社会医療法人朋仁会　整形外科北新東病院	60	463
17	特定医療法人とこはる　東栄病院	52	326

精神科救急医療体制について（道央（札幌・後志ブロック）精神科救急医療体制整備事業）

精神科救急医療施設（道央・後志2ブロック）【○は基幹病院】				
石金病院 （札幌市北区）	小原病院 （札幌市北区）	五稜会病院 （札幌市北区）	札幌鈴木病院 （札幌市北区）	中江病院 （札幌市北区）
啓生会病院 （札幌市東区）	札幌佐藤病院 （札幌市東区）	○札幌トロイカ病院 （札幌市白石区）	札幌ロイヤル病院 （札幌市白石区）	長野病院 （札幌市白石区）
○大谷地病院 （札幌市厚別区）	札幌グリーン病院 （札幌市手稲区）	手稲病院 （札幌市手稲区）	中垣病院 （札幌市手稲区）	計14病院

※道央・後志2ブロック：札幌市（北区、東区、白石区、厚別区、手稲区）、江別市、石狩市、当別町及び新篠津村

後方病院（札幌圏）				
石金病院 （札幌市）	大谷地病院 （札幌市）	小原病院 （札幌市）	啓生会病院 （札幌市）	五稜会病院 （札幌市）
札幌太田病院 （札幌市）	札幌グリーン病院 （札幌市）	札幌佐藤病院 （札幌市）	札幌トロイカ病院 （札幌市）	札幌西の峰病院 （札幌市）
さっぽろ香雪病院 （札幌市）	手稲病院 （札幌市）	ときわ病院 （札幌市）	中江病院 （札幌市）	中垣病院 （札幌市）
長野病院 （札幌市）	林下病院 （札幌市）	平松記念病院 （札幌市）	江別市立病院 （江別市）	江別すずらん病院 （江別市）
島松病院 （恵庭市）	本田記念病院 （恵庭市）	計22病院		

遠隔地域支援病院（札幌圏）		
江別市立病院（江別市）	熊谷病院（石狩市）	計2病院

合併症受入協力病院（札幌圏）			
市立札幌病院 （札幌市）	北海道医療センター	江別市立病院 （江別市）	計3病院

江別市立病院が担うべき医療について（検討の視点）

○医療機能

一般	入院	外来	在宅医療

精神	入院	外来	在宅医療

○病床機能［一般病床］

（高度急性期）	急性期	回復期	（慢性期）

○５疾病

がん	脳卒中	急性心筋梗塞	糖尿病	精神疾患

○５事業

救急医療	災害医療	周産期医療	小児医療	（へき地医療）

江別市立病院　診療行為分析

入院

○一般病棟（平成30年度実績）
　病床利用率　63.1%（延患者）
　平均在院日数　12.1日（全国平均18.8日）
○地域包括ケア病棟（平成30年度実績）
　病床利用率　56.6%（在院患者）
　平均在院日数　24.8日（全国平均34.1日）
○精神病棟（平成30年度実績）
　病床利用率　39.6%（延患者）
　平均在院日数　62.1日（全国平均247.7日）

方向性：機能分化

手術

○手術件数
　平成28年度　1,840件
　平成29年度　1,927件
　平成30年度　1,851件
○手術実績の評価
　外科の手術実績が低下傾向にあり、DPC算定同規模病院の平均を下回っている。
　⇒外科の手術件数の増加余地あり

方向性：機能維持

外来

○外来患者数
　平成28年度　702.6人
　平成29年度　674.1人
　平成30年度　610.8人
○入院外来比率
　平成29年度　3.06（類似公立病院平均　2.45）
　平成30年度　3.36
　⇒外来の比重が高い患者構成
○紹介率（平成30年度）　16.2%（計算方法修正後）
○逆紹介率（平成30年度）　18.7%（計算方法修正後）
※初診時選定療養費　400円

方向性：専門化

在宅

○訪問診療件数
　平成30年度　651件
○訪問看護件数
　平成30年度　3,976件【増加傾向】
　（小～中規模ステーション並）
○精神科デイケア
　平成30年度実績　4,895件（最大数の50%未満）
○精神科訪問看護
　平成30年度実績　1,278件（小規模ステーション並）

方向性：機能強化

江別市立病院における5疾病の医療提供状況

がん

○江別市立病院の現状
・産婦人科、泌尿器科の診療体制は整っている。
・消化器外科の診療体制は整っている。
　⇒消化器内科の専門医を招聘できればさらに整備可
○診療報酬改定の動向
・緩和ケアを含む質の高いがん医療等の評価
○今後の方向性
・在宅、回復期におけるがん医療や緩和ケアへの取組
　⇒「北海道がん診療連携指定病院」の可能性検討

方向性：機能強化

脳卒中・急性心筋梗塞

○脳卒中
・高度医療機器（MRI、RI）の活用による予防医療
　⇒脳神経外科専門外来を開始
○急性心筋梗塞
・循環器内科の体制整備が必要（1名体制→3名程度）
・アンギオを2台保有

方向性：機能分化

糖尿病

○江別市立病院の現状
・糖尿病教室を実施（多職種連携）
・人工透析病床21床
・江別市内の透析病床保有施設
　江別病院／谷藤病院／江別泌尿器科／のっぽろクリニック
○今後の方向性
・糖尿病専門外来の可能性検討（大学医局等との連携）

方向性：機能分化

精神疾患

○江別市立病院の現状
・平成30年度病床利用率 39.6%
・一般急性期病棟等で認知症を有する急性期患者を受入れ
○江別市内の状況
・すずらん病院（精神病床234床）
　認知症疾患医療センターであり、急性期から慢性期まで幅広く対応
・友愛記念病院（79床）
　認知症治療病棟を保有

方向性：機能分化

江別市立病院における5事業の医療提供状況

救急医療

○江別市立病院の現状
・二次救急受け入れのためには、内科医の体制が脆弱
・ユニットケア室（ICU等）がなく、受入態勢が脆弱
○江別市の救急医療体制
・一次救急
内科・小児科：夜間急病センター及び輪番制（日・祝）
外科：輪番制（夜間、土・日・祝）
・二次救急
輪番制なし
（江別市立病院では、火・金、第3土日に受入れ）

方向性：機能分化

災害医療

○江別市立病院の現状
・災害拠点病院の指定なし
・災害派遣チーム（DAMT）の保有なし
・業務継続計画（BCP）については現在策定中
○江別市の災害医療体制
・災害時救急医療計画推進（案）について、江別医師会と協議中

方向性：機能分化

小児医療

○江別市立病院の現状
・市内で唯一の小児科入院病床を保有
⇒小児入院医療管理料4（20床）
・小児科年間入院延べ患者数
平成28年度　3,013人
平成29年度　2,728人
平成30年度　2,635人
令和元年度　1,715人（上半期）

方向性：機能維持

周産期医療

○江別市立病院の現状
・市内で唯一の分娩施設（西3病棟47床）
・LDR室2室保有
・年間分娩件数
平成28年度　280件
平成29年度　301件
平成30年度　306件
令和元年度　238件（上半期）

方向性：機能維持

江別市立病院の診療科の方向性について（検討の視点）

	1日平均 入院患者数 （人）	1日平均 外来患者数 （人）	5疾病	5事業	市内医療機関における対応		備考 （関連標榜科）
					入院	外来	
内科	32.1	78.7	がん	救急、災害	○	○	
呼吸器内科	0.0	4.4	がん	救急、災害	○	○	
消化器内科	3.3	6.7	がん	救急、災害	○	○	内視鏡内科
循環器内科	8.8	27.8	急性心筋梗塞	救急、災害	○	○	
人工透析内科	－	36.6	糖尿病	（災害）	○	○	
内科小計	44.2	154.2					
小児科	9.4	36.3		救急、災害、小児	×	○	小児循環器内科
外科	13.5	20.2	がん	救急、災害	○	○	消化器外科、内視鏡外科、乳腺外科
整形外科	40.2	68.9		救急、災害	○	○	
産婦人科	15.8	46.5	がん	周産期	×	△	
皮膚科	－	27.9			△	○	
耳鼻咽喉科	2.7	34.6			×	○	
眼科	3.5	46.7			×	○	
泌尿器科	8.1	34.2	がん		×	○	
麻酔科	5.9	14.0			○	△	ペインクリニック麻酔科
精神科	24.7	90.9	精神疾患	災害	○	○	
合計	168.0	574.4					

※入院患者数、外来患者数は、令和元年度上半期の１日平均

機能別必要病床数の算出 （ 参考:医療資源投入量による区分別患者数）

現行の病床機能

H30年度	許可病床数	割合
急性期（小児含む）	234	84.1%
急性期（地域包括）	44	15.9%
全体	278	100.0%

◆ 医療資源投入量による区分別患者数の割合から、現状の一日平均患者数を勘案して病床機能を算出した。

医療資源投入量による区分別患者数の延患者数から病床数を算出する

	DPC上分類の延べ患者数	一日平均患者数	DPC上分類の割合	左記割合から病床数を算定（278床）	H30年度一日平均患者数から病床数を適正化	急性期と回復期に統合	看護単位（病棟）	病棟種別
高度急性期	4,953	13.6	8.8%	25	19	94	2単位	急性期一般病棟
急性期（小児含む）	21,113	57.8	37.3%	104	75			
回復期	25,260	69.2	44.6%	124	77	93	2単位	地域包括ケア病棟
慢性期	5,272	14.4	9.3%	25	16			
全体	56,598	155.0	100.0%	278	187	187	4単位	

地域医療構想における必要病床数 ー 札幌医療圏 ・ 江別市ー

	高度急性期			急性期			回復期		
	現状	必要病床数	不足数	現状	必要病床数	不足数	現状	必要病床数	不足数
札幌医療圏	4,185	3,913	▲272	14,591	10,951	▲3,640	2,131	8,923	6,792
江別市	0	184	184	596	514	▲82	0	419	419
評価	充足（江別市も充足）						不足（江別市も不足）		

	慢性期			未回答			合計		
	現状	必要病床数	不足数	現状	必要病床数	不足数	現状	必要病床数	不足数
札幌医療圏	11,877	11,999	122	936	0	▲936	33,720	35,786	2,066
江別市	278	563	285	8	0	▲8	882	1,679	797
評価	充足（江別市は不足）						やや不足（江別市は不足）		

- 地域医療構想にて掲示された2025年における必要病床数（2次医療圏）と、人口割合で算出した江別市における必要病床数を記した。
- 現状は、2015年病床機能報告に基づく数値となっている。

必要病床数の試算１　ー需要面からの試算ー

	人口割合 必要病床数		修正 必要病床数 ①	2015年 現状病床数 ②	②ー①
急性期	514		289	596	307
回復期	419	市内受診率 56.20% （H28年度実績）	235	0	△ 235
合計	933		524	596	72

急性期及び回復期において、引き続き、平成28年度の市内受診率を維持すると仮定した場合、江別市立病院では、一般病床を206床程度（278床－72床）確保する必要があると試算できる。

必要病床数の試算２　ー供給面からの試算ー

（単位：人）

	H29年度 医師数	H30年度 医師数	R1年度 医師数	想定 医師数	想定 患者数	算定方法
総合内科	13	9	7	6		内科系医師 1日1人当たり患者数 5.2人（H30年度実績）
内科（人工透析）	0	1	1	1		
呼吸器科	0	0	0	0		
消化器科	1	1	1	3		
循環器科	2	1	1	3		
内科計	16	12	10	13	67.6	
小児科	5	5	4	4	7.2	平成30年度実績
外科	3	4	4	4	14.3	平成30年度実績
整形外科	2	3	2	2	40.0	平成29年度実績
産婦人科	3	3	3	3	12.3	平成30年度実績
皮膚科	0	0	0	0	0.0	入院なし
耳鼻咽喉科	1	1	1	1	3.0	平成30年度実績
眼科	1	1	1	2	6.0	平成30年度実績の2倍弱
泌尿器科	2	2	2	2	7.7	平成30年度実績
麻酔科	4	4	4	4	3.5	平成30年度実績
合計	37	35	31	35	161.6	

救急医療体制等を維持するための診療体制に必要な医師数から想定患者数を計算し、病床利用率を地域医療構想における急性期病床の利用率（78%）と仮定した場合、208床程度必要と試算できる。

4 江別市立病院の診療体制に関する事項

江別市立病院　職員数比較　－類似道内公立病院比較－

			1		2	3
			江別市立病院 (H29)	**江別市立病院 (R1)**	滝川市立病院 (H29)	千歳市民病院 (H29)
病床数　（稼働数）			337	337（287）	314	190
一般病床数　（稼働数）			278	278（228）	270	190
主な看護配置			一般:7対1 地域包括:13対1 精神:13対1	一般：7対1 地域包括：13対1 精神：13対1	一般：7対1 地域包括：13対1 精神：13対1	一般:7対1
入院患者数（一日平均）			219.8	167.8	232.2	146.7
外来患者数（一日平均）			674.1	574.3	827.8	676.8
職員数　常勤換算	医師		43.0	34.6	42.0	33.7
	看護師（助産師・准看護師含）		311.2	267.8	249.8	206.6
	内訳	一般病棟	155.9	128.5	150.7	120.0
		外来	65.0	57.9	48.7	64.6
		手術室	14.0	13.0	15.6	11.0
		その他（精神病棟含む）	76.3	68.4	34.8	11.0
	看護補助者		31.6	23.1	23.0	21.4
	内訳	一般病棟	22.5	17.1	19.0	16.2
		外来	2.5	1.0	0.0	3.4
		手術室	1.0	1.1	0.0	1.8
		その他	5.6	3.9	4.0	0.0
	理学療法士		6.0	6.0	12.0	4.0
	作業療法士		5.0	5.0	1.0	2.0
	言語聴覚士		1.0	1.0	0.0	0.0
	薬剤師		11.0	11.0	11.0	6.0
	診療放射線技師		12.0	12.0	11.0	9.3
	臨床検査技師		18.7	17.8	14.0	10.4
	臨床工学技士		11.0	10.0	9.0	5.0
	管理栄養士		4.9	4.7	5.0	3.3
合計			455.4	393.0	377.8	301.7
備考						

出典）厚生労働省　平成29年病床機能報告　、　江別市立病院診療情報、職員数

医療法に基づく看護師標準数と看護職員配置数について

○医療法に基づく看護師標準数（平成30年度）

区分	項目	平成29年度実績（人）	看護配置	看護師標準数（人）
外来	1日平均外来患者数	674.1	30対1	23
一般病床	1日平均入院患者数	198.9	3対1	66.3
精神病床	1日平均入院患者数	24.8	3対1	8.2
合計				98

○看護職員配置数（平成31年3月31日現在）

管理部門ほか	常勤換算数（人）	手術・訪問部門	常勤換算数（人）
看護管理室	5	手術・中央材料室	14
看護部付	15	訪問看護室	7.4
		精神リハビリテーション室	4.7
小計	**20**	**小計**	**26.1**
病棟部門	**常勤換算数（人）**	**外来部門**	**常勤換算数（人）**
西3病棟	22.9	1階外来	35.3
東4病棟	30.7	2階外来	23
西4病棟	24.9	人工透析室	18.5
東5病棟	21.9	救急診療室	7.3
西5病棟	29.1		
南1病棟	22.9		
小計	**152.4**	**小計**	**84.1**
合計			282.6

病棟における看護職員の配置状況について（令和元年９月実績）

区分	一般病棟	地域包括ケア病棟	精神病棟
病床数	４病棟／１８４床	１病棟／４４床	１病棟／５９床
１日平均患者数 （H30.10～R元.9）	１１３人	２３人	２３人

施設基準	急性期一般病棟入院料１ （７対１）	地ケア病棟入院基本料２ （１３対１）	精神病棟入院基本料 （１３対１）
要配置数※ （患者数基準）	８１人	９人	９人
要配置数 （３人夜勤基準）	８０人	２０人	２０人
実配置数 （令和元年９月）	９９人	２１人	２１人
夜間配置加算 （３人夜勤体制評価）	○	○	―
要配置数 （２人夜勤基準）	５６人	１４人	１４人

※要配置数（患者数基準）＝１日平均患者数÷７（又は１３）×３×３０日÷１８コマで計算
（入院基本料等の施設基準に係る届出書添付書類様式９の計算方法とは異なる。）

看護職員配置状況 （令和元年10月1日時点）

Summary
- 外来の配置は、各診療科ごとに配置されていることより、配置人員数が多くなっていることが想定される。
- 病棟配置は、平均患者数から必要数を算出すると、配置人数が多くなっている。特に地域包括病棟において多くなっている。
- 人工透析・精神リハビリテーションなど、各治療場ごとに人員が配置されていることより、その他の項目が多くなっていることが想定される。

種別		現状（看護師）		配置基準	配置数	平均患者数（令和元年上半期）	配置必要看護師数（常勤換算）	備考
		常勤	非常勤					
一般病棟	西3病棟（44床）	24	0	7対1	常勤98 非常勤4	111.4	88.6	小児病床保有
	東4病棟（50床）	26	1					
	西4病棟（48床）	23	1					
	西5病棟（48床）	25	2					
	東5病棟（44床）	21	0	13対1	常勤21	20.5	11.2	地域包括ケア病棟
外来	1階外来棟	15	26			574.3	医療法：30対1	視能訓練士1名
	2階外来棟	12	21					
手術	手術・中央材料室	12	1				配置基準無し	
その他	看護管理	5					配置基準無し	
	看護部付	7	1				配置基準無し	
	南1病棟（59床）	21	0	13対1	常勤21	24.4	12.6	
	精神リハビリテーション室	3	2				配置基準無し	行政職2名、OT2名
	人工透析室	11	5				配置基準無し	
	救急診療室	7	1				配置基準無し	
	訪問看護室	5	2				2.5名以上	
	地域医療連携室　他	9	0				配置基準無し	
合計		226	63					

※ 現状看護師数は、人数表記となっており常勤換算数表記となっていない。
※ 一般病床においては、職員一人当たりの夜勤時間72時間/月の基準があり、夜勤ができない職員が増えると必要数は増加する。
※ 看護必要数の算出において、各種加算は考慮に入れていない。加算取得状況によって必要数は増加するものである。

参考資料） 看護配置数の計算方法

病棟における看護配置数の計算方法 （様式9）（例：一般病床の計算）

看護配置基準　（　7 対 1　）・・・ A
一日平均患者数　（　111.4人　）・・・ B
一日の所定労働時間（　8　時間　）・・・ C
病棟数（　4　）・・・D

① 1勤務に必要な看護師数の計算
B（ 111.4人 ） ÷ A（ 7 ） ＝ E（ 15.9人 ）

② 1日に必要な看護師数の計算
E（ 15.9人 ） × 3勤務/日 *1 ＝ F（ 47.7人 ）

③ 看護師の必要な年間総労働時間の計算
F（ 47.7人 ） × C（ 8時間 ） × 365日 ＝ G（ 139,409時間 ）

④ 看護師一人当たりの年間総労働時間の計算
C（ 8時間 ） × 19日/月 *2 × 12か月 ＝ H（ 1,920時間 ）

⑤ 必要看護師数の計算
G（ 139,409時間 ） ÷ （ 1,920時間 ） ＝ I（ 72.6人 ）

⑥ 運営上必要な看護師数の計算
I（ 72.6人 ） ＋ （ D（ 4病棟 ） × 4人 *3 ） ＝ **【 88.6人 】**

*1 一人当たり8時間勤務なので、24時間÷8時間で一日3勤務となる。
*2 月19日勤務だと、年間休日137日となり、有給消化も考慮した。
*3 夜勤のできない看護師などをがいることから運用が難しくなることを想定して、1病棟当たり4名の人員追加した。

内科診療体制について

○内科医師の招聘活動について

＜大学医局への医師派遣要請＞
道内医育大学の各医局に対し、内科固定医の派遣を要請している。

【参考：江別市立病院あり方検討委員会答申（平成１９年２月８日）より】
・専門性を確保する観点からは、大学からの医師派遣を基本とすべき
・複数の医局、大学に依頼することで、市立病院の医師確保を進めていくことを明確にすべき
・総合内科的な診療科も、ひとつの専門科であるという認識のもとに設置されるべき

＜民間医療機関への医師派遣要請＞
民間医療機関に対し、内科固定医の派遣を要請している。

＜民間派遣会社の活用＞
民間派遣会社を活用し、医師の採用を実施。
⇒透析内科医、消化器医、総合内科医、健診担当医などの招聘の実績に繋がっている。

○必要となる内科医師数の想定について

目的	必要となる内科医	必要数	目指す価値
在宅医療・高齢者医療の提供	総合内科医	6	安心
二次救急受入体制の整備	循環器内科医	3	救命
がん診療体制の確立	消化器内科医	3	生活の質
合計		12	

５　市立病院の経営改善に関する事項

経営指標比較

区分			単位	算式	江別市立病院 平成29	江別市立病院 平成30	公立病院平均	類似公立病院
機能性	病床利用率		%	年間延べ入院患者数÷年間延べ許可病床数	65.2	※1 58.5	73.8	72.8
	在院日数		日	年間延べ患者数÷[(新入院患者数＋退院患者数)÷2]	12.6	13.0	18.2	14.0
	入院外来比		-	1日平均外来患者数÷1日平均入院患者数	3.06	3.36	2.34	2.45
	患者1人1日当たり医業収益(入院)		千円	入院診療収益÷年間延べ入院患者数※室料差額除く	42,905	43,910	45,768	46,986
	患者1人1日当たり医業収益(外来)		千円	外来診療収益÷年間延べ外来患者数	12,105	12,161	13,008	12,839
	100床当たり職員数		人	常勤換算数×100÷許可病床数	151.4	※1 167.0	135.7	139.2
	医師		人	常勤換算数×100÷許可病床数	14.7	※1 14.8	15.9	16.1
	看護部門		人	常勤換算数×100÷許可病床数	101.4	※1 109.4	81.0	83.5
	薬剤部門		人	常勤換算数×100÷許可病床数	3.3	※1 4.2	3.9	4.3
	事務部門		人	常勤換算数×100÷許可病床数	10.9	※1 13.0	12.4	13.0
	給食部門		人	常勤換算数×100÷許可病床数	1.5	※1 1.7	2.5	2.3
	放射線部門		人	常勤換算数×100÷許可病床数	3.8	※1 4.5	3.8	4.1
	臨床検査部門		人	常勤換算数×100÷許可病床数	5.4	※1 6.5	4.8	5.2
	その他		人	常勤換算数×100÷許可病床数	10.4	※1 12.9	11.4	10.8
	医師	入院(従業員1人1日当たり患者数)	人	1日平均入院患者数÷常勤換算数	4.5	4.0	4.5	4.5
		外来(従業員1人1日当たり患者数)	人	1日平均外来患者数÷常勤換算数	9.1	9.0	7.3	7.5
	看護部門	入院(従業員1人1日当たり患者数)	人	1日平均入院患者数÷常勤換算数	0.6	0.5	0.9	0.9
		外来(従業員1人1日当たり患者数)	人	1日平均外来患者数÷常勤換算数	1.2	1.2	1.5	1.5
費用の適正性	人件費率		%	人件費÷医業収益	59.7	65.7	55.9	56.9
	医療材料費率		%	医業材料費÷医業収益	18.8	19.0	24.0	24.2
	経費率		%	経費※A÷医業収益	28.5	33.3	23.2	21.8
	減価償却費率		%	減価償却費÷医業収益	8.9	10.1	9.2	9.5
	金利負担率		%	支払利息÷医業収益	1.9	2.0	1.7	1.8
生産性	常勤換算医師1人1日当たり診療収益		円	診療収益÷常勤換算医師数	301,705	284,934	301,276	306,273
	常勤換算看護職員1人1日当たり診療収益		円	診療収益÷常勤換算看護職員数	40,471	37,032	60,335	59,777
収益性	経常収支比率		%	(医業収益+医業外収益)÷(医業費用+医業外費用)	90.5	83.6	98.0	96.3
	医業収支比率		%	医業収益÷医業費用	85.8	78.1	88.4	88.4

経営指標比較(注釈説明)

総務省　病院事業決算状況・病院経営分析比較表(平成29年度)の数値を基に作成

※1　許可病床数は337床。平成30年10月1日から50床休止のため、稼動病床数287床で計算

※A　経費＝医業費用－(人件費＋医療材料費＋給食材料費＋減価償却費)

※「類似平均」は、経営規模区分(一般病院の300床以上400床未満)に基づき算出

各指標の比較において、劣っている箇所は色掛けセルとしている。

近隣公立病院との経営状況比較　－千歳市民病院（平成30年度実績）との比較－

	江別市立病院	市立千歳市民病院
病床数	337床（一般278床、精神59床）	190床（一般病床のみ）
診療科	内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、産婦人科、皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科、泌尿器科、麻酔科、精神科	内科、循環器科、消化器科、小児科、外科、脳神経外科、整形外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、泌尿器科、麻酔科
入院患者数（1日平均）	182.4	148.0
外来患者数（1日平均）	610.8	664.0
入院患者1日当たり金額（円）	43,910	59,803
外来患者1日当たり金額（円）	12,161	10,141
当年度純利益（千円）	△ 1,141,339	38,024
職員数（正職員）	359	297
うち医師数	33	36
うち看護師数	240	186
医業収益（千円）	5,171,548	5,640,527
職員給与費対医業収益比率（%）	65.7	48.7
材料費対医業収益比率（%）	19.0	20.9

※医業収益、職員給与費医業収益比率、材料費対医業収益比率は、決算統計ベース

経営形態の類型整理について

形態	定義	効果	留意点
(1)地方公営企業法の全部適用	地方公営企業法第2条第3項の規定により、病院事業に対し、財務規定等のみならず、同法の規定の全部を適用するもの。	事業管理者に対し、人事・予算等に係る権限が付与され、より自律的な経営が可能となることが期待される。	地方公営企業法の全部適用については、比較的取り組みやすい反面、経営の自由度拡大の範囲は、地方独立行政法人化に比べて限定的であり、また、制度運用上、事業管理者の実質的な権限と責任の明確化を図らなければ、民間的経営手法の導入が不徹底に終わる可能性がある。 同法の全部適用によって所期の効果が達成されない場合には、地方独立行政法人化など、更なる経営形態の見直しに向け直ちに取り組むことが適当。
(2)指定管理者制度の導入	地方自治法第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であって当該普通地方公共団体が指定するものに、公の施設の管理を行わせる制度。	民間の医療法人等（日本赤十字社等の公的医療機関、大学病院、社会医療法人等を含む。）を指定管理者として指定することで、民間的な経営手法の導入が期待されるもの。	本制度の導入が所期の効果を上げるためには、①適切な指定管理者の選定に特に配意すること、②提供されるべき医療の内容、委託料の水準等、指定管理者に係わる諸条件について事前に十分に協議し相互に確認しておくこと、③病院施設の適正な管理が確保されるよう、地方公共団体においても事業報告書の徴取、実地の調査等を通じて、管理の実態を把握し、必要な指示を行うこと等が求められる。
(3)地方独立行政法人化 (非公務員型)	地方独立行政法人法の規定に基づき、地方独立行政法人を設立し、経営を譲渡するもの	地方公共団体と別の法人格を有する経営主体に経営が委ねられることにより、地方公共団体が直営で事業を実施する場合に比べ、例えば予算・財務・契約、職員定数・人事などの面でより自律的・弾力的な経営が可能となり、権限と責任の明確化に資することが期待される。	設立団体からの職員派遣は段階的に縮減を図る等、実質的な自律性の確保に配慮することが適当。 また、これまで実際に地方独立行政法人化した病院において、人事面・財務面での自律性が向上し、経営上の効果を上げているケースが多いことにも留意すべき。 なお、現在一部事務組合方式により設置されている病院で、構成団体間の意見集約と事業体としての意思決定の迅速・的確性の確保に課題を有している場合にも、地方独立行政法人方式への移行について積極的に検討すべき。
(4)民間譲渡	地域の医療事情から見て公立病院を民間の医療法人等に譲渡し、その経営に委ねることが望ましい地域にあっては、これを検討の対象とすべき。 公立病院が担っている医療は採算確保に困難性を伴うものを含むのが一般的であり、こうした医療の提供が引き続き必要な場合には、民間譲渡に当たり相当期間の医療提供の継続を求めるなど、地域医療の確保の面から譲渡条件等について譲渡先との十分な協議が必要である。		
(5)事業形態の見直し	地域医療構想においては、構想区域における医療需要や病床の機能区分ごとの将来の病床数の必要量が示されることになる。これに加え、介護・福祉サービスの需要動向を十分検証することにより、必要な場合、診療所、老人保健施設など病院事業からの転換を図ることも含め事業形態自体も幅広く見直しの対象とすべきである。		

出典）　総務省　地域医療の確保と公立病院改革の推進に関する調査研究会報告書（平成29年12月）

地方独立行政法人の事例 ： 筑後市立病院　　－Summaryと病院概要－

Summary

- H23年に独立行政法人化した。これにより組織体制の決定、給与の決定、職員定数や人員配置の決定などが、病院側に委ねられた。
- 医師の確保・診療の効率化による入院収益の増加を図った。
- 院外コンサルタントの導入などにより費用削減を行った。
- 結果、繰入前経常損益が▲505,669千円から▲81,502千円と、424,167千円改善した。

病院概要

開設者	地方独立行政法人筑後市立病院
住所	福岡県筑後市大字和泉917-1
診療科目	内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、内分泌・代謝内科、小児科、放射線科、外科、消化器外科、心臓血管外科、整形外科、脳神経外科、産婦人科、麻酔科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、眼科、リハビリテーション科
主な診療時間	月　～　土　8:30～11:30（祝日、第3土曜日、お盆、年末年始を除く）
許可病床数	233床（一般231床、感染症2床）
職員数	261人（うち、医師34名、看護師153名、医療技術員55名、事務職員19名）
施設基準	看護基準7:1、救急告示病院、小児医療、周産期医療、人間ドック、ICU・CCU、運動機能訓練室

参考） 平成28年3月総務省自治財政局公営企業室刊行　公立病院経営改革事例集

地方独立行政法人の事例 ： 筑後市立病院　　－主要課題と取組－

前改革プラン策定時の病院運営に係る主要課題とそれに対する取組

（1） 民間経営手法の導入、事業規模・形態の見直し

- 地方独立行政法人へ移行 （平成23年4月1日）

（2） 経費削減・抑制

- 人事給与制度の見直し
- 診療材料、薬品等の調達の見直し （外部コンサルタント契約）
- ジェネリック医薬品の使用拡大

（3） 増収施策・確保

- 診療体制の充実と病床利用率の向上
- 7対1看護体制の実施
- DPCの最適化
- 未収金発生防止や少額訴訟の活用
- 経営企画室を新設し、1回/月の経営戦略検討会議をスタート

（4） 将来の地域医療構想を踏まえた病棟再編

- 地域包括ケア病棟への転換

（5） 災害への備え

- ヘリポート、ICU、備蓄倉庫、ならびに、多目的室といった災害への備えに加え、内視鏡治療センター、リハビリテーション科などの完成

地方独立行政法人の事例 ： 筑後市立病院　　－経営状況の変化－

（単位：千円）	H20年度 i	H25年度 ii	差異 ii - i	H25年度病床100床あたり 当該病院 iii	類似規模 全国平均 iv	差異 iii - iv	H29年度 v	H25年比較 差異 v - ii
経常収益A	3,276,104	4,851,614	1,575,510	1,966,358	1,700,335	266,023	4,793,130	▲ 58,484
医業収益a	3,090,603	4,460,693	1,370,090	1,914,461	1,480,794	433,667	4,698,484	237,791
入院収益	2,081,963	2,867,442	785,479	1,187,743	940,947	246,796	3,107,261	239,819
外来収益	812,952	1,077,552	264,600	462,469	419,871	42,598	1,069,700	▲ 7,852
他会計繰入金b	58,000	322,882	264,882	138,576	57,547	81,029	112,238	▲ 210,644
医業外収益	185,501	120,921	▲ 64,580	51,897	219,540	▲ 167,643	94,646	▲ 26,275
他会計繰入金c	153,272	54,106	▲ 99,166	23,221	176,325	▲ 153,104	41,431	▲ 12,675
経常費用B	3,570,501	4,286,128	715,627	1,839,540	1,751,405	88,135	4,765,156	479,028
医業費用d	3,389,338	4,069,508	680,170	1,746,570	1,654,611	91,959	4,535,214	465,706
給与費	1,728,044	2,357,688	629,644	1,011,883	834,116	177,767	2,794,248	436,560
材料費	608,722	725,900	117,178	311,545	311,895	▲ 350	754,558	28,658
減価償却費	315,823	345,918	30,095	148,463	105,403	43,060	372,514	26,596
委託費	419,191	392,162	▲ 27,029	168,310	147,218	21,092	357,648	▲ 34,514
医業外費用	181,163	216,620	35,457	92,970	96,794	▲ 3,824	229,942	13,322
支払利息	103,563	80,120	▲ 23,443	34,386	28,663	5,723	62,818	▲ 17,302
医業損益a-d	▲ 298,735	391,185	689,920	167,891	▲ 173,816	341,707	163,270	▲ 227,915
経常損益（A-B） D	▲ 294,397	295,486	589,883	126,818	▲ 51,070	177,888	27,974	▲ 267,512
純損益	▲ 337,322	274,725	612,047	117,908	▲ 43,009	160,917	28,074	▲ 246,651
繰入前経常損益D-b-c	▲ 505,669	▲ 81,502	424,167	▲ 34,979	▲ 284,943	249,964	▲ 125,695	▲ 44,193

経営形態見直しに係る費用試算①

1. 経営形態一覧

江別市立病院の現状：地方公営企業法一部適用

	経営形態	見直しに係る費用面での主な検討事項等
①	地方公営企業法全部適用	・特別な費用は発生しない（事務的経費は発生する） ・事業管理者の選任、条例・規程等の整備等
②	地方独立行政法人	・債務超過の場合や事業の独立採算制が担保されないと認可されない ・設立に係る出資等に要する経費が発生する ・退職手当上の職員の扱いについて検討が必要
③	指定管理者制度	・指定管理者との協議による ・退職手当の支給に伴い、経費が発生する
④	民間譲渡	・譲渡先の医療法人との協議による ・退職手当の支給に伴い、経費が発生する
⑤	廃止	・病院施設の他用途への転用について検討が必要

経営形態見直しに係る費用試算②

2. 経営形態の見直しに係る費用

	項目	金額（千円）	備考
①	地方債残高	5,700,754	・繰上償還が必要な場合は借換債の措置（病院施設の転用を前提とする）
②	一時借入金残高	1,400,000	・平成30年度末の残高
③	一般会計長期借入金残高	1,100,500	・一般会計との協議
④	退職手当支給に要する経費	706,234	・退職手当債の措置（個別に国と協議が必要となる）
⑤	国庫等補助・負担金	148,043	・平成30年度末時点の金額（長期前受金） ・病院事業のために交付された補助金等の返還
※	不良債務額	1,416,549	・平成30年度末の資金不足額 ※病院再編等に伴い、新たな経営主体を設立し、出資する場合は、病院事業債の対象となる可能性あり。
※	債務超過額	579,049	・平成30年度末の債務超過額 ※債務超過状態に陥っている場合、そのままでは地方独立行政法人に移行できない。

合計（①～⑤）　9,055,531千円

江別市病院事業会計への一般会計繰入金内訳（平成26年度～平成30年度）

（単位：千円）

科目				積算根拠	平成26年度決算額	平成27年度決算額	平成28年度決算額	平成29年度決算額	平成30年度決算額	備考
収益的収入	医業収益	負担金	救急医療業務経費	運営収支不足額	369,210	340,681	355,015	356,057	329,591	
			医業収益 負担金 小計		369,210	340,681	355,015	356,057	329,591	
	医業外収益	負担金	企業債償還利子経費	所要額×2/3（精神3/3、H15以降債1/2）	96,578	90,838	84,519	78,001	71,425	※精神1/3相当額は基準外
			ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ部門業務経費	運営収支不足額	22,901	9,247	6,581	7,322	19,695	
			精神病院運営経費	医業収支不足額	133,075	97,605	119,266	112,926	102,914	
			高度医療経費	削検所要額、高額医療機器（企業債償還元利）	29,509	35,294	48,149	53,603	53,603	
			小児医療経費	医業収支不足額	52,103	27,978	30,000	30,000	30,000	
			医業外収益 負担金 小計		334,166	260,962	288,515	281,852	277,637	
		補助金	医師等研究研修費	所要額×1/2	17,198	19,116	18,195	18,009	16,750	
			追加費用公的負担経費	所要額全額	58,764	43,512	33,071	41,137	38,295	
			医師確保経費	所要額×2/3（分娩手当）、所要額×1/2（研修医給与）	19,620	19,620	22,074	22,821	22,086	
			在宅診療経費	医業収支不足額×2/3	24,925	19,260	20,358	7,167	7,199	※市独自項目のため全額基準外
			地域医療連携経費	医業収支不足額×1/3	14,062	8,735	8,877	10,131	11,510	※市独自項目のため全額基準外
			総合内科養成経費	所要額×1/3	60,820	45,621	40,400	21,985	20,845	※市独自項目のため全額基準外
			院内保育運営経費	運営収支不足額又は運営費用の1/2の少ない方	8,703	9,538	11,762	8,471	10,545	
			一時借入金利子補給経費	所要額×1/2	172	306	136	204	447	※市独自項目のため全額基準外
			産科医療経費	所要額×1/4	36,454	37,439	38,434	45,137	55,409	※市独自項目のため全額基準外
			基礎年金拠出金公的負担経費	所要額全額	85,181	92,328	81,144	80,851	81,733	
			公立病院特例債償還利子経費	所要額全額	2,752	1,186	0	0	0	
			児童手当経費	所要額全額	23,010	24,685	24,945	23,650	22,730	
			公立病院改革推進経費	所要額全額×1/2	0	4,860	3,867	0	0	
			医業収益 補助金 小計		351,661	326,206	303,263	279,563	287,549	
	医業外収益 小計				685,827	587,168	591,778	561,415	565,186	
	特別利益	補助金	公立病院特例債元金経費	所要額×1/2	70,997	71,780	0	0	0	
			特別利益 補助金 小計		70,997	71,780	0	0	0	
	合計				1,126,034	999,629	946,793	917,472	894,777	
資本的収入	出資金		企業債償還元金経費	所要額×2/3（精神3/3、H15以降債1/2）	349,170	403,136	448,255	475,389	490,016	※精神1/3相当額は基準外
			建設改良等経費	所要額×1/2	850	1,228	1,197	1,929	1,204	
	合計				350,020	404,364	449,452	477,318	491,220	
総合計					1,476,054	1,403,993	1,396,245	1,394,790	1,385,997	
【参考】営業運転資金のための長期借入金					0	750,000	0	0	600,000	

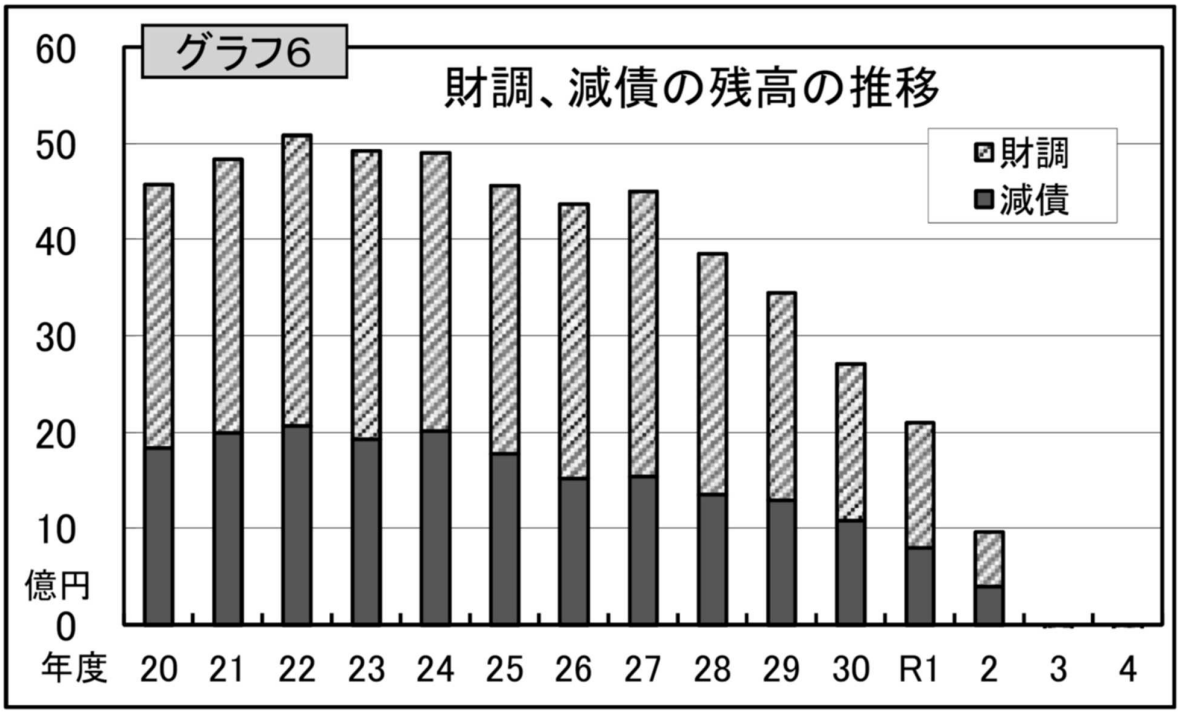
江別市財政の状況①　－平成31年度各会計予算規模の概要－

（単位:千円,%）

会計区分		平成30年度当初 (A)	平成31年度予算案 (B)	当初比較 (B)－(A)	当初比較 増減率	平成30年度12月 (C)	12月比較 (B)－(C)	12月比較 増減率
一般会計		43,550,000	45,820,000	2,270,000	5.2	44,325,690	1,494,310	3.4
特別会計	国民健康保険	12,216,000	12,253,000	37,000	0.3	12,642,718	△389,718	△3.1
	後期高齢者医療	1,691,000	1,713,000	22,000	1.3	1,691,000	22,000	1.3
	介護保険	9,961,000	9,916,000	△45,000	△0.5	10,344,707	△428,707	△4.1
	基本財産	387,000	376,000	△11,000	△2.8	387,000	△11,000	△2.8
	計	24,255,000	24,258,000	3,000	0.0	25,065,425	△807,425	△3.2
企業会計	水道事業	3,758,415	3,826,831	68,416	1.8	3,768,415	58,416	1.6
	下水道事業	5,724,355	5,876,245	151,890	2.7	5,757,831	118,414	2.1
	病院事業	8,493,693	7,925,835	△567,858	△6.7	8,462,447	△536,612	△6.3
	計	17,976,463	17,628,911	△347,552	△1.9	17,988,693	△359,782	△2.0
総計		85,781,463	87,706,911	1,925,448	2.2	87,379,808	327,103	0.4

（注）　各企業会計の予算規模は、収益的支出と資本的支出の予算額を合算したものである。

江別市財政の状況②　－財政調整基金、減債基金の残高の推移－



○財政調整基金（平成30年度末16.3億円）、減債基金（平成30年度末10.8億円）は、
収支不足の解消のためにすべて取り崩していくと令和3年度に残高がなくなる。

経営再建に向けた中期戦略による効果額の算定①

（１）市立病院が担うべき医療の重点化による患者数の増　６．７億円

①入院患者の増加
令和元年度上半期　１６８人（１日平均）
想定患者数　　１９２人（同上）
入院患者数の増　　２４人（同上）
≪効果額≫２４人×４３，０００円（入院単価）×３６５日＝３．７億円

②外来患者数の増加
令和元年度上半期　５７５人（１日平均）
想定患者数　　６８０人（同上）
外来患者数の増　　１０５人（同上）
≪効果額≫１０５人×１２，０００円（外来単価）×２４３日＝３．０億円

（２）診療体制の確立による職員配置体制の適正化　１．４億円

①職員配置体制の適正化による給与費の減
７，７００千円×３５．６人＝２．７億円

②医師配置体制充実による給与費の増
２２，０００千円×５．５人＝（△）１．２億円

③臨床研修医の増
６，０００千円×２人＝（△）０．１億円

経営再建に向けた中期戦略による効果額の算定②

（３）経営体制の構築による収益増加及び費用削減　４．１億円

①入院単価の向上（ＤＰＣ運用の適正化、手術件数の増ほか）
３，０００円×１９２人×３６５日＝２．１億円
（平成２９年度入院単価　江別市４２，９０５円　類似公立病院４６，９８６円）

②経費の削減（委託料）
想定医業収益　５６．４億円（診療収益５２．１億円、その他医業収益４．３億円）
想定委託料率　１０．７％（平成２９年度類似公立病院平均）
想定委託料　　６．１億円
現状委託料　　８．１億円（平成３０年度実績）
削減可能額　　２．０億円

◎（１）～（３）までの合計　　１２．２億円